

3-1-4. 事業予算

(1) 野生生物保護管理計画の全事業資金計画

最新の全事業資金計画は、世銀ナイロビ事務所長が1991年10月中旬にワシントン世銀本部で、開催された本案件評価会に提出した『ケニア野生生物と保護地域の保全計画 世銀アフリカ農業部編・1991年10月版』に掲載されている〔表-29〕のプロジェクト概算見積額（1億4300万ドル）である。

その主な資金項目別の5ヶ年計画に関しては、同資料の付属表3表に下記〔表-43〕の表値が記載されている。

また、〔表-31〕の各ドナー国への援助要請分担の細目事業に対する拠出金要請額を、〔表-44〕に示す。

〔表-43〕 ケニア野生生物と保護地域の保全計画・各年概算資金表（千ドル）

支出費目	1年	2年	3年	4年	5年	計
A. 土木工事 Civil Work						
1. 建築 Buildings	3,148	10,394	8,309	4,438	2,286	28,576
2. 道路 Roads	663	1,874	3,815	1,586	894	8,832
B. 自動車 Vehicles	132	10,536	4,539	1,326	231	16,763
C. 機器/資材 Equipment/Material	412	8,347	4,617	1,016	675	15,067
D. 施設/機器・機械 Plant. Machinery	1,512	5,011	4,973	4,977	125	16,599
E. フェンス Fencing	607	2,464	3,096	0	0	6,167
F. 技術支援 Technical Assist.	2,591	3,357	2,357	1,778	1,443	11,526
G. 地方契約職員 Local Contract Staff	613	1,041	1,176	1,068	985	4,883
H. トレーニング Training	530	853	891	707	459	3,440
I. 調査費用 Reseach Fund	213	215	217	202	192	1,039
J. 社会共存費 Community Dfvel. Fund	281	524	490	422	186	1,904
投資金の計 Total Investment	10,702	44,617	34,479	17,522	7,476	114,797
a. 土地移転 Translocation	71	72	72	65	60	341
b. 給与・手当 Salaries & Allowance	170	352	468	452	417	1,859
c. 道路維持 Roads Maintenance	477	484	486	454	430	2,330
d. 出張旅費 Travel / Allowances	261	243	316	235	227	1,282
再発金の計 Total Recurrent	1,585	4,832	6,795	7,492	7,464	28,168
事業総額 Total Project	12,287	49,449	41,274	25,014	14,940	142,965

〔表-44〕 各援助国の分担事業別の拠出（期待）金（単位：千ドル）

区分	米国	英国	日本	ドイツ	フランス	EEC	世銀
A. Headquarter Strengthen	236	5,742	0	0	0	134	13,925
B. Trainig	1,215	879	0	0	1,174	0	2,174
C. Park Infra.	748	3,097	13,433	5,203	86	0	22,666
D. Community Wildlife P.	4,722	0	0	1,125	0	6,167	3,545
E. Education / Visitors	0	737	0	0	0	0	5,138
F. Policy / Planning	91	186	0	0	1,728	0	949
G. Research & Apec	0	576	496	0	405	1,221	4,907
H. Veterinary Services	0	0	105	0	0	0	1,448
I. Reserves Infra	0	0	563	0	0	0	1,897
J. Wildlife	0	583	44-	0	0	484	3,776
合計 Total	7,012	11,799	15,037	6,328	3,393	8,006	60,426

(2) KWS 公社の各国立公園別の事業資金投資5ヶ年計画

KWS 公社は、各国立公園に対する5ヶ年間の事業投資額を、次のように計画している。

換算は、20. Ksh=1. K£=0.8\$ (世銀値) 1000. Ksh=40. \$

〔表-45〕 ケニア野生生物公社 (KWS) の年次別事業資金投資予定 (単位: 千Ksh)

区 分	1991	1992	1993	1994	1995	摘 要
① ナイロビ国立公園	18,600	24,540	31,940	35,520	37,830	
② 西ツァボ国立公園	23,050	30,490	39,700	44,090	46,980	
③ 東ツァボ国立公	32,800	43,250	56,190	62,350	65,510	
a. 3公園の計	74,450	98,280	127,840	141,960	150,320	
④ ナクル湖国立公園	7,780	10,630	14,120	15,770	16,760	
⑤ メルー国立公園	13,750	18,220	23,720	26,300	28,120	
⑥ アンボセリ //	14,360	20,050	27,050	30,490	32,690	
b. 3公園の計	34,890	48,900	64,890	72,560	77,570	
A. 6国立公園の計	110,340	147,180	192,730	214,520	227,890	
B. その他の計	370,490	521,820	620,270	663,480	705,110	
全事業投資金額	480,830	669,000	813,000	878,000	933,000	

(3) KWS 公社の1990年度における各国立公園等からの全収入

〔表-46〕 ケニア野生生物公社 (KWS) 1990年度の各公園等における全収入 (単位: 千Ksh)
Revenue for National Park and Reservers, year - 1990. (1,000. Kenya Shillings)

区分	要請のあった6国立公園								その他の 国立公園 と保護区 の 合計	総計
	対象の3公園				他の3公園			6公園 の 合計		
	ナイロビ	西ツァボ	東ツァボ	計	ナクル湖	メルー	アンボセリ			
年収入金	12,138	14,740	16,614	43,492	20,391	1,595	31,984	97,462	32,625	130,087
収入比率	9%	11%	13%	33%	16%	1%	25%	75%	25%	100%

(4) KWS 公社に関する1991年度政府予算

1991年度のケニア国政府予算書によれば、KWS 公社に関する政府予算は、次頁に示す〔表-47〕の通りで、それを要約および換算すると下記のようなになる。

区 分	千. K£	(換算・千円)	摘 要
KWS 本部の支出金額	9,196	7,356	
各ドナーの援助充当金	8,052	6,441	
① 差引・所要金額	1,144	915	
事業管理の支出金額	3,185	2,548	
第2世銀の援助充当金	185	148	
② 差引・所要金額	3,000	2,400	
③ 正味の所要金額	4,144	3,315	

〔表-47〕 ケニア野生生物公社の1991年度政府予算(単位: K.£ ケニアシリング = 約0.8\$)

項目名	TAITOL	90年度予算 Estimates 1990/91	91年度予算 Estimates 1991/92	摘要
KWS 163 Kenya Wildlife Service				
本部各部門 531 Departmental Headquarters				
輸送 作業 経費	Transport Operating Expenses	—	15,100	
旅行 宿泊 経費	Travelling and Accommodation Expenses	—	30,550	
専門家 契約 役務	Contracted Professional Services	56,000	155,266	
その他 各種	Miscellaneous Other Charges	25,000	137,950	
プロジェクト準備施設	Project Preparation Facility	—	150,000	
プロジェクト準備施設	Project Preparation Facility	—	100,000	
トレーニング 経費	Training Expenses	—	47,250	
技術 援助	Technical Assistance	625,000	4,042,258	
自動車 交換	Replacement of Motor Vehicles	127,000	—	
自動車 補修	Rehabilitation of Vehicles	430,800	—	
自動車 追加 購入	Purchase of Additional Vehicles	673,200	574,000	
装置と機器 購入	Purchase of Plant and Equipment	449,750	594,000	
装置と機器 購入	Purchase of Plant and Equipment	134,338	92,151	
装置と機器 購入	Purchase of Plant and Equipment	—	780,000	
無線 通信機	Radio Communications	18,000	956,250	
装置と機器 修理	Repair of Plant and Equipment	—	450,000	
自然 環境 保護	Natural Environment Protection	—	67,750	
道路 埠頭 渡 修復	Maintenance, Roads, Ferries & Jetties	—	441,800	
KWSAの 補助金	Grants to Kenya Wildlife Service	534,002	213,903	
生態 調査	Ecological Research	—	54,350	
庁舎 建築	Construction, Buildings NonResidential	181,500	293,000	
道路 橋 建設	Construction of Roads and Bridges	79,000	—	
溝 フェンス 建設	Construction of Trenches and Fences	7,750	—	
施設 準備 計画	Project Preparation Facility	115,000	—	
全支出	GROSS EXPENDITURE	3,456,340	9,195,578	①
援助充当金 Appropriations in Aid				
借入 購入-欧州 経済 共同体	Credit Purchase - EEC	530,000	—	
借入 購入-日本	Credit Purchase - JAPAN	625,000	4,000,000	
借入 購入-EEC/欧州開発基金	Credit Purchase - EEC/EDF	—	1,200,000	
借入 購入-国連 開発 計画	Credit Purchase - UNDP	134,338	295,425	
借入 購入-イギリス	Credit Purchase - UK	1,518,000	2,456,250	
直接 支払-オランダ	Direct Payment - NETHERLANDS	—	100,000	
借入 購入-第2 世界	Credit Purchase - IDA	115,000	—	
援助充当金の計	Total Appropriations in Aid	2,922,338	8,051,675	②
本部の正味支出額	Net Expenditure Head 531	534,002	1,143,903	①-②=A

ケニア野生生物公社の1991年度・政府予算(続)

(2/2)

項目名	TAITOL	90年度予算 Estimates 1990/91	91年度予算 Estimates 1991/92	摘要
事業の管理 542 Management Projects				
専門家契約費	Contracted Professional Service	30,495	196,613	
その他各種	Miscellaneous Other Charges	135,505	158,990	
ワarden 訓練	Warden in - Service Training	20,000	124,292	
自動車 追加購入	Purchase of Additional Vehicles	114,000	196,184	
ボート 追加購入	Purchase of Additional Boats	—	31,642	
置と器具 購入	Purchase of Plant and Equipment	50,000	380,190	
庁舎 建築	Construction of Building NonResidence	50,000	717,652	
配水 下水 建設	Construction of Water Supplie & Sewerage	50,000	891,803	
道路 橋 渡船場	Construction of Road,Bridge,Ferri,Jet	50,000	367,053	
溝 フェンス 建設	Construction of Trenches and Fences	—	120,241	
全支出	GROSS EXPENDITURE	500,000	3,184,660	③
援助充当金 Appropriations in Aid				
借入 購入 - 第2 種	Credit Purchase - I D A	100,000	184,660	④
事業管理の正味支出	Net Expenditure Head	400,000	3,000,000	③-④=B
公社の正味総支出額	Net Expenditure Subvote 163	934,002	4,143,903	A+B=C

〔出典〕 ケニア国政府1991/92年度予算書 Development Estimates for Year 1991 / 1992.

3-2. 要請の背景と内容

3-2-1. 要請の背景

ケニア共和国は、鉱物天然資源に乏しく、特出した産業を持たないため、自然原野等に生息する野生生物を観察する観光事業は、有望な外貨収入源であって、1989年には外貨獲得の第一位になっている。野生生物に関する行政は、1976年以來の『野生生物保護管理法』に基づいて、観光野生生物省に設けられた野生生物保護管理局によって行われていたが、予算面および人材面等に多くの問題があつて、国立公園や国立保護区等の周辺住民は、野生動物の脱境被害を受けたり、また密猟等の横行によって、貴重な観光資源のゾウやクロサイ等が激減する状態に至っていた。

ケニア政府は、このような状況を打開するため、第6次国家開発5ヶ年計画（1989～1993年）の一環として、野生生物保護を主体とした環境保全および観光資源の保護と振興等を重点政策の支柱に掲げ、1990年1月に、それらの野生生物と観光に関する行政および計画立案運営実行等を一元的に担当する半官半民組織の『ケニア野生生物公社（KWS）』に改組した。

KWS公社は、観光野生生物省に直属する政府機関ではあるが、経営の自立性と運営に柔軟性を持つ特異機能の組織体で、1990年11月『ケニア野生生物公社の開発5ヶ年計画と実行方針（1991～1996年）』を策定して、当面5ヶ年間の経営と事業方向を明らかにした。それは、事業体制等を改善し、野生生物の生息環境と観察施設等の整備を進め、また1992年からは国立公園の入園料を改めて収入面の改善増収等を図り、必要な再建整備事業等の財源に当てると云うもので、5ヶ年以後の将来はサファリ観光客の増加に伴う収益増で、国家財政の安定に寄与することも重要な課題指標になっている。

同公社は5年計画の事業展開に当り、ケニア政府とともに、必要な資金面や人材面等が当面不足のため、予定する各種の事業分野について、資金協力や技術協力による援助方を世銀および主要諸国に要請し、我が国には、国立公園のうちの主要6公園を対象に、その各公園の管理運営等に必要な車両・道路補修機材等について、援助要請がなされている。

この要請に対し、世銀を主軸に、米国（USAID）は東西両ツァボとアンボセリ国立公園周辺の住民対策を、英国（ODA）は通信機器の整備と職員訓練を、欧州経済共同体（EEC）はゾウの保護事業を、オランダは湿地帯の開発整備等を、ドイツ（KFW）は道路の建設整備を、イタリアは大地溝帯地域の住民対策について、それぞれ援助する予定で、1991年10月頃からKWS公社側と段階的な個別協議等が始まっている。

3-2-2. 要請の内容

ケニア野生生物公社から我が国に対する要請内容は、①ナイロビ、②東ツァボ、③西ツァボ、④ナクール湖、⑤メルー、⑥アンボセリの6国立公園について、これら公園の維持管理、運営、密猟防止等に必要な、次の各種車両および道路整備用の機材であつた。

- a. 道路の改良補修用機材（グレーダ、ローラ、ローダー、ダンプトラック等）
- b. 公園の管理用機材（4輪駆動自動車、トラック、バス、給水タンク自動車等）
- c. 上記各機材の修理整備用の機器具

我が国はこの要請に基づいて事前調査団を派遣し、現地調査を実施して同公社側と協議の結果、同公社から具体的な要請として、①ナイロビ、②西ツァボ、③東ツァボの3公園に対する〔表-48〕の機材について、無償資金協力による援助要請があつた次第である。

〔表-48〕 1991年10月17日版・KWS公社の改定要請機材リスト(3公園)

〔注記〕 ① 1期(1~3年)は1年目の導入台数、2期(4~5年)は4年目の導入台数。
 ② 但し、2期(4~5年)分はケニア側事業の実施状況により、新たに考慮するする予定。
 (1/2)

機種数	機 械 名	3公園5年間の必要台数				導入期別数		今回要請台数 (1期給数)	摘 要
		1期	2期	3期	計	1期	2期		
01	自転車 26インチ 普通型	5	2	12	19	19	-	19	
02	オートバイ 175 cc	3	2	6	11	11	-	11	
03	乗用車 1900 cc	5	1	1	7	7	-	7	
04	軽 バトル 1300cc 4x4	3	3	3	9	9	-	9	
05	ピックアップ車 1700cc 4x2	-	-	-	-	-	-	-	
06	ピックアップ車 2000cc 4x4	2	4	4	10	6	4	6	
07	ピックアップ車 同上cc 4x4	-	-	-	-	-	-	-	
08	ピックアップ車 4000cc 4x4	4	12	15	31	24	7	24	
09	ピックアップ車 同上cc 4x4	1	2	2	5	5	-	5	
10	バトル車 4000cc 4x4	-	-	-	-	-	-	-	
11	ステーションワゴン 2300cc 4x4	7	2	2	11	6	5	6	
12	ピックアップ車 特種型 6x6	-	-	-	-	-	-	-	
13	小型バス 10人乗り以上 4x2	2	1	4	7	7	-	7	
14	中型バス 22人乗り以上 4x2	4	2	1	7	4	3	4	
15	大型バス 40人乗り以上 4x2	2	2	3	7	4	3	4	
16	トラック 4トン 170馬力 4x2	3	4	2	9	6	3	6	
17	トラック 8トン 220馬力 4x2	4	4	9	17	9	8	9	
18	トラック 4トン 170馬力 4x4	1	4	6	11	6	5	6	
19	ダンプ車 8トン 220馬力 4x4	4	8	8	20	20	-	20	
20	水タンク車 8トン 220馬力 4x2	2	2	2	6	6	-	6	
21	水タンク車 4トン 170馬力 4x4	-	2	3	5	5	-	5	
22	燃料タンク車 8トン 220馬力 4x4	-	4	4	8	4	4	4	
23	バキューム車 4トン 170馬力 4x2	1	-	1	2	2	-	2	
24	レッカー車 14トン 170馬力 6x4	1	-	1	2	1	1	1	
25	井戸掘り機 深さ300m 同上 6x4	1	-	-	1	1	-	1	
26	井戸掘り機 170馬力 6x4	1	-	-	1	1	-	1	
27	トレーラトラック 30トン 6x4	1	1	1	3	2	1	2	
28	同上の付帯トレーラ 30トン	-	2	2	4	2	2	2	
29	4輪トラック 60馬力 4x2	3	4	5	12	3	9	3	
30	4輪トラック 30馬力 4x4	1	4	4	9	6	3	6	
頁の計		61	72	101	234	176	58	176	

機種数	機 械 名	3公園5年間の必要台数				導入期別数		今回要請 台数 (1期当額)	摘 要
		刈り機	刈り機	刈り機	計	1期	2期		
31	モーターローダ 135馬力 3.7m	1	8	8	17	9	8	9	
32	踏式耕耘ロー 110馬力 10屯	1	4	4	9	6	3	6	
33	ドーザショベル 135馬力 1.8m ³	1	4	4	9	5	4	5	
34	ホイールローダ 110馬力 1.7m ³	—	—	1	1	1	—	1	
35	カローザ 200馬力 リッパ付	—	—	1	1	1	—	1	
36	園工作業車 機器1式	1	1	1	3	3	—	3	
37	トラクタ 3m ³ 積	1	—	—	1	1	—	1	
38	クワ式トラクタ 5トン積	—	—	—	—	—	—	—	
39	燃料タンクトラクタ 1000.L量	1	2	—	3	3	—	3	
40	水タンクトラクタ 1000.L量	2	4	4	10	10	—	10	
41	小型耕耘ロー 300kg級	1	4	4	9	6	3	6	
42	コンクリートミキサ 300.L量	1	4	4	9	6	3	6	
43	芝刈り機 5馬力級	2	2	3	7	7	—	7	
44	草刈り機	3	4	4	11	6	5	6	
45	刈込機 6馬力 50cm	1	1	2	4	4	—	4	
46	コンクリート振込機 6馬力 50cm	1	4	4	9	6	3	6	
47	アスファルト散布機 500.L量	1	1	1	3	3	—	3	
48	揚水ポンプ 30馬力 750.L/分	2	2	5	9	6	3	6	
49	ディーゼル発電機 30KVA	3	5	5	13	9	4	9	
50	燃焼器用エンジン	—	—	—	—	—	—	—	
51	樹木伐倒機 径20×深100cm	1	—	1	2	2	—	2	
52	燃焼器	—	—	—	—	—	—	—	
53	事務所の設備用品	—	—	—	—	—	—	—	
54	航空機								
A	小型単発 薪割機 2人座 180馬力	1	1	1	3	3	—	3	
B	小型単発 薪割機 4人座 250馬力	—	1	1	2	2	—	2	
C	小型双発 薪割機 6人座 300馬力	—	—	—	—	—	—	—	
D	ヘリコプター 7人座 600馬力	1	—	—	1	1	—	1	
55	船 舶								
B	遊覧ボート 70馬力 12人乗り	—	2	1	3	3	—	3	
C	遊覧ボート 50馬力 6人乗り	—	1	1	2	2	—	2	
車両・建機・空機・船舶の計		87	127	161	375	276	99	276	
56	修理工場用の機器具	1式	1式	1式	3式	3式	—	3式	
57	脱境防止用の金網	—	—	—	—	—	—	—	
総 計								(以上)	

第4章 要請内容の検討

4-1. 要請事業の検討

(1) ケニア野生生物保護管理の全体事業計画

全体事業計画は、1990年11月ケニア野生生物公社(KWS)が公表した『ケニア野生生物公社の開発計画と実行方針(1991年～1996年)』が基礎になっている。

この全体計画書は、世銀の支援を得て、現KWS公社の総裁リチャード・E・リーキー博士の企画主宰と指導により、現在のKWS公社幹部となったスタッフ等が、それぞれの専門分野を担当して、1988年後半頃から1990年の前半期にわたって、ケニア国内の野生生物保護管理等に関する実態を調査し、その調査結果を基に、改善対策方案と共に新公社の運営組織等を練り上げ、編集したもので、その主目標は、次の3点である。

- ① 貴重な野生生物資源と、その生息環境および生態系を保護し、管理する。
- ② 野生生物を基本にした恒久的な観光事業を確立する。
- ③ KWS公社の組織を改善し、運営能力の向上を図る。

その主目標に則って編集された、全体事業計画の項目内容は、以下の通りである。

序文	Preface
国立公園と保護区の位置図	Map of Kenya National Parks and Reserves
実施概要	Executive Summary
略語集	Acronyms
A編 : 開発の背景	Part A : the Development Context
1. 序論	Introduction
2. KWS公社の戦略と優先度	KWS Strategy and Priority issues
3. 協同的な土地利用	Land use and Intersectoral Collaboration
B編 : KWS公社方針と5ヶ年計画	Part B : KWS Policies and Five - Year Programme
4. 観光開発	Tourism Development
5. 公園と保護区の外の野生生物	Wildlife Management outside Park and Reserves
6. 教育と観察客へのサービス	Education and Visitor Service
7. 調査	Research
8. 野生生物の管理計画	Planning the Management of Wildlife
9. 公園と保護の管理	Management of Park and Reserves
C編 : 実行と資金	Part C : Implementation and Finance
10. 人材開発と公社管理	KWS Management and Staff Development
11. 財政管理と予測	Financial Management and Prospects
12. 優先順位	Priorities
13. 正当性と危険性	Justification and Risk
容認	Acknowledgement
付録 : コスト表	Appendix : Costtables

付属書

Annexes

1. 組織機構と管理	Organizational Structure and Management
2. 収入財源	Revenue Sources
3. 公園来訪客の開発と管理	Development and Management of Tourism in Parks
4. 国立公園と保護区の計画	National Park and Reserve Planning
5. 野生生物教育と観察客へのサービス	Wildlife Education and Visitor Service
6. 域外の共存社会保護と野生生物管理	Community Conservation and Wildlife Management Outside
7. 特別対策 : ゾウとサイの保護	Special Issues : the Conservation of Elephants and Rhinos
8. 野生生物調査	Wildlife Research
9. 必要な主要投資額	Capital investment needs
10. 土地利用計画と管理	Land use planning and Management in Kenya
11. 計画の影響 : 3方策の研究	Programme Impacts : Three case Studis

また、この全体事業計画における主要事項の要旨は、以下の通りである。

- ① 〔資金〕 計画の遂行には総額3億ドルの長期投資金を必要とするが、第1事業期（5ケ年）分として必要な額は1億4700万ドルである。
- ② 〔出資〕 そのうち、KWS公社は10%を、残りの90%は各ドナーから出資協力を得たい。
- ③ 〔経営合理化〕 KWS公社は、公園の外国人入園料を値上げし、また全組織人員4860人のうち1640人を削減する等して、経営の合理化を図る。
- ④ 〔基盤整備〕 入園者や公園管理用の道路補修整備、庁舎等の建築、車両等の修理工場の整備を図る。
- 〔社会共存化〕 野生生物と周辺地域住民との共存体構想を促進定着させ、公社は地域社会に利益還元と住民への教育啓蒙を図る。
- ⑤ 〔教育サービス〕 職員の教育、来訪者へのサービスを図る。

(2) 世銀調査団と各ドナーの現地協議

1991年6月、世銀はケニアに調査団を送り『ケニア野生生物の保護と管理に関する計画(WAPAMプロジェクト)』について調査を行い、各国ドナーの参加を得て、ケニア政府の担当省(観光野生生物省)と協議した。その際の重要協議点は、『全体事業計画は、その実施経過について、評価とその後の活動に修正を加えるため、1993年末迄に中間見直しを行い、プロジェクトを調整する』と云うこと等の決定である。

その後、全体事業計画の各個別事業について、ケニア国側と世銀の要請で、各国ドナーが支援協力に興味を示した専門事業領域は次の通りであった。

欧州経済共同体 (E E C)	:	ゾウ保護計画と関連するフェンス設置等
日本政府 (J a p a n)	:	道路等の基礎施設整備 (機材)
ドイツ復興金融金庫 (K F W)	:	道路等の基礎施設整備 (施工)
オランダ政府 (D u t c h)	:	湿地帯と海洋 / 海岸保護管理計画、職員の訓練
英国海外開発庁 (O D A)	:	組織制度の確立と管理運営の教育訓練
米国海外援助局 (U S A I D)	:	野生生物と地域住民の共存社会計画
イタリア政府 (I t a l y)	:	未提示

(3) 世銀の評価報告書と日本の事前調査

この全体事業計画案件の推進を担当している世銀のナイロビ事務所は、91年6月以来各国ドナーに計画の協力要請や個別の会談等を重ね、案件具体化の最終的スケジュールを決め、11月の世銀評議会に提出する評価レポートを作成して、9月下旬サダトアメッド事務所長はワシントンに赴き、世銀本部と最終的な詰め段階の協議に入った。その後は12月中に世銀の最終決定を行い、世銀は1992年1月から融資開始という業務活動の予定であるが、この世銀評価レポートの内容は、〔表-29〕から〔表-31〕のように相当具体化したものである。

日本側調査団は、1991年9月25日から10月24日迄ケニアの現地で、この要請案件に関する事前調査を実施し、ケニア政府と合意した内容について、〔付-52〕から〔付-54〕のミニッツを10月7日に交換した。それには、対象とする国立公園は現在協力隊員が配属され、機材供与後もその維持管理面で問題の少ないと思われる、ナイロビ西ツァボ、および東ツァボの3ヶ所とし、

- ① 対象公園における道路の補修改良用の重機械、機材、及び車両の調達
- ② 対象公園における野生生物保護および管理用の車両の調達
- ③ 機械修理工場の機器と工具

が必要であることを確認し、日本における今後の調査によって、対象機材は内容・数量等に変更もあり得る、としている。

KWS公社からは、ミニッツの主旨に従って10月17日に、〔付-55〕から〔付-63〕の通り、国立公園3ヶ所分の具体的な改定要請機材リストが、事前調査団長あてに提出された。

(4) 日本の援助を期待する個別事業の状況

以上の経緯によって、KWS公社および世銀側が日本に期待するものは当面3国立公園の道路整備に必要な機材と野生生物保護管理用の車両、および機械修理工場 (Workshop) 用の機器具で、それらの状況は以下の通りである。

① 3 国立公園の道路状況

公園内の道路は、野生動物の生息環境を保全し、動物の移動等に支障のないよう特別な配慮が行われており、そのため自然状態に近い『土道路』が最も多く、人為的な舗装道路（アスファルトまたは砂利、碎石の敷込み）は厳しく制限している。

3公園の道路延長は〔表-24〕に示す通りであるが、この延長は各公園ともに増やす予定は無い。舗装道路は、ナイロビ公園の場合、正面ゲートから生息地に至る迄の僅かな区間の下り坂路が、降雨等で浸食するのを防ぐためのもので、この辺に迄は野生動物が来ないので問題はない。また砂利道路は、近年来訪する観察客のマイクロバスが増え、交通量が多くなった区間に限り、土道路の路面上に砂利または碎石を厚さ15cm程に敷込んでいる。しかし、観察来訪客が年々増えるのに伴い車両の交通頻度も増すので、砂利敷道路に改良することは確実である。土道路は、自然原野の植生を除去して、裸地面を道路にしているもので、グレーダで路巾の中央部分を少し高くして、水掃けを良くした形状になっている。これは道路管理とKWS公社の施工基準通りに作業が行われている例を示しているものである。

従って、道路構造的には、通常10人乗り程度のマイクロバスが運行するだけの道路であるから、3種の道路とも現状の構造仕様で充分である。しかし、砂利道路と土道路の路面について、凹凸の整形および雑草除去のグレーダ作業等は最低1年2回の施工は必要不可欠であるが、何れの公園も機械不足のため行われていない。

② 3 国立公園の道路補修整備計画

KWS公社の今後5ヶ年間の作業計画は、〔表-33〕及び〔表-34〕に示す通りで、その施工は各国立公園事務所が直営方式で実施する。

国立公園事務所の道路作業班は、モーターグレーダが配備された場合には、最低1年2回のグレーダ作業を実施することに決められており、その作業時期は路面の締め固めに適する雨季の期間が最適で、それ以外の乾季には散水タンク車を随伴して作業を行う。

KWS公社のグレーダ作業能力は、平均1台 3.5km/日、年間150日稼働と、極めて低い値で所要台数の算出計算をしているが、これは故障の多い老朽機の作業実績が基礎になっているためである。

通常、3公園のような砂利道路および土道路のグレーディングは、道路補修でも軽作業の部類で、それら標準的な作業能力は、耐用年数未満のグレーダで、未熟練の運転手の場合は、次のように算出する。

作業条件 : 路巾5~6m, 往復2回掛け, 1日8時間制で実働6時間の場合、
作業速度3km/時, 土工板長さ3.1m (有効作業巾2.5m)

作業能力 : $\{(3000\text{m} \times 6\text{時間}) \div 2\text{回掛け}\} \times \text{効率}0.8 \approx 7\text{km/日}$

1台能力 : $7\text{km/日} \times 150\text{日の場合} = 1050\text{km/年}$

③ 国立公園の監視用と業務用に使用する車両類

現在、各国立公園で使用している自動車の殆どは、耐用年数（4～5年）を2倍以上経過した4輪駆動車とトラック類である。そのため故障や定期点検などの部品待ち等で、休車している台数は相当多い。

この実情は〔表-26〕に示す通りの状況数値が最大原因で、この他には各公園の現有台数が〔表-27〕のように少ないため、その酷使も相当影響している。

しかし、全体事業計画のなかで必要とされている自動車必要台数は、予想以上に多く、例えば〔表-43〕のB項に、5ヶ年間の自動車購入費用は1676万ドル（注：約21億7880万円相当）とあり、これらは公園管理用の4輪駆動自動車類であるため、1台平均2万ドルとすれば全台数は約840台となる。なお、この台数には、各公園毎の工事用ダンプトラックや各種作業用車両等は含まれておらず、これらの作業車両は〔表-43〕D項の施設機器と機械の中に含まれている。

その約840台を〔表-18〕の内勤と外勤を合計した公社総人員数3220人当りで見ると、平均3.8人に1台の数となり、また同表の自動車運転手（1～3級）合計207人を工事用および作業用の車両運転手と仮定した場合には、残りの人員数3013人当りでは、平均3.6人に1台となる。因みに、米国機械化兵団の平均1台当り約6人に比較しても、この車両台数は遥かに多い数である。

そして、この数多い調達等は、〔表-31〕の援助要請分担内容に見られる通り、各国ドナー毎に要請を予定している細分化事業の中に、それぞれ分散されている。そのためか、この全体事業計画の機材積算を担当した当事者は、『日本が供与できない機材(数と車種)については、他のドナー国を捜すつもりである〔付-41〕』と云っている事でも、その辺の事情が想察される。

④ 機械修理工場（Workshop）の組織体制と必要な機器具類の配備

KWS公社発足時（1990年1月）の全体減員率は33.7%（△1640人）であった。この時の機械修理工場関係は〔表-18〕の番号39～42に該当する職種の合計55人に対する減員率は34.5%（△19人）で、この値は略々同率である。

その後、1991年8月にKWS公社は機械修理工場体制の改組を行って、中央工場（1ヶ所）、地方工場（7ヶ所）、各公園工場（19ヶ所）、合計27工場の新編成〔表-35〕に改め、1996年迄の全体事業5ヶ年計画期間中に、各工場の格付け〔表-36〕に相応した工場要員数への新規増員を予定し、既に1部では増員を始めている。

今回の事前調査対象6公園に関する工場要員の増員数は、〔表-41〕に示す通り、1991年10月現在の要員合計は71人で、これを1996年には176人とする計画である。従って、この間に105人の新規増員が予定されている。

また、各工場が工場内に設備するための機器と工具も、新工場の格付けに応じて〔表-42〕に示す通り計画済みで、KWS公社は各国ドナーから逐次供与される機器具や工具は、格付けの上位順に充足し、充足工場から次第に下位の不足工場に順次必要な機器具類を配備する予定である。

4-2. 要請機械の検討

(1) KWS公社の要請機材

KWS公社が、ナイロビ、西ツァボ、東ツァボ、の3公園用として、必要機材の数量を積算した要請機材リストは、〔表-48〕に示す通りである。

この要請機材リストは、ケニア政府側と日本側事前調査団の合意に基づき、援助対象の公園は現在協力隊員が配属され、機材供与後もその維持管理面での問題が少ないと思われる上記の3公園に限定し、それらの必要機材については、世銀とケニア政府側との間における1991年6月の協議決定事項『全体事業計画は、その経過について1993年末迄に中間見直しを行い、プロジェクトを調整する』と云う主旨も参考にして、KWS公社は3公園が必要としている業計画期間5ケ年間の機材のうち、緊急性の高い1年～3年迄の間に必要な機材を第1期分とし、その後の4年～5年に必要な機材を第2期分として分け、その第1期分の機材を〔付-55〕～〔付-59〕に示す通り日本側に要請したものである。

(2) KWS公社要請機材の検討査定

日本側の事前調査団による現地各公園の調査結果と、KWS公社から提出のあった調査対象の各公園事務所組織〔表-19〕～〔表-21〕と構成人員〔表-22〕、既存道路の状況〔表-24〕、道路補修5ケ年計画〔表-33〕と〔表-34〕、および現有機材リスト〔表-27〕等の資料値を基にして、新たな機材の耐用年数内における稼働機能力等も併考の上、ケニア側の事業実施能力、予算状況、計画内容等を検討した結果は、以下の通りである。

- ① 事業実施能力 : 対象の3公園は、1946年から1948年に設立〔表-1〕され、国立公園の中でも最古の伝統があり、各公園長はKWS公社の中でも最優秀クラスの上級監視長(Senior Warden)や監視長(Warden)が配属され、その指揮下の警備隊員(Rangers)と事務所員および機械修理工場の職種別人員数等も妥当であるため、野生生物の保全と密猟防止および運営管理、比較的習熟容易な道路補修技術、機材の修理技術等、事業実施に必要な能力を具備していると思われる。
- ② 予算状況 : 対象3公園等の予算は、〔表-43〕～〔表-47〕に示した通り、ケニア政府および世銀の協調で、5ケ年計画資金と毎年の所要額等は決められ、また各国ドナーの援助等によって、必要な原資の確保と予算の履行は予定どおり行われるものと思われる。
- ③ 計画の内容 : 全体事業計画は世銀の支援によるものであり、その実施状況は3年後に中間見直しが行われ、調整される事になっている。また日本側に要請の野生生物保護計画は既述した通りの経緯と結果によるもので、その要請機材〔表-48〕は、これらの検討の結果、必要台数等は〔表-49〕に示す通りであるが、今後引き続き実施される調査で、さらにケニア側と十分な協議を行う必要がある。

〔表-49〕 1991年10月17日KWS公社の要請機材(3公園分)と必要機材の査定台数

〔注記〕 1期は1年目の調達予定台数、2期は4年目の予定台数を示す。

(1/2)

機種数	機 械 名	5年間分の要請台数				導入期別数		本計画の査定台数	摘 要
		1期	2期	3期	計	1期	2期		
01	自転車	5	2	12	19	19	-	19	要請通り
02	オートバイ 175 cc	3	2	6	11	11	-	11	〃
03	乗用車 1900 cc	5	1	1	7	7	-	*	公園内活動等には不要の為
04	軽トラック 1300cc 4×4	3	3	3	9	9	-	9	要請通り
05	ピックアップ車 1700cc 4×2	-	-	-	-	-	-	-	
06	ピックアップ車 2000cc 4×4	2	4	4	10	6	4	6	要請通り
07	ピックアップ車 1.8cc 4×4	-	-	-	-	-	-	-	
08	ピックアップ車 4000cc 4×4	4	12	15	31	24	7	12	作業合理化で1/2で足りる為
09	ピックアップ車 1.8cc 4×4	1	2	2	5	5	-	*	作業量等を勘案して削除
10	トラック 4000cc 4×4	-	-	-	-	-	-	-	
11	ステーションワゴン 2300c 4×4	7	2	2	11	6	5	6	要請通り
12	ピックアップ車 軽型 6×6	-	-	-	-	-	-	-	
13	軽バス 10人乗り以上 4×2	2	1	4	7	7	-	*	輸送量等を勘案して削除
14	軽バス 22人乗り以上 4×2	4	2	1	7	4	3	3	輸送合理化で3公園各1台
15	軽バス 40人乗り以上 4×2	2	2	3	7	4	3	*	輸送量等を勘案して削除
16	トラック 4t積 170馬力 4×2	3	4	2	9	6	3	3	要請通り
17	トラック 8t積 220馬力 4×2	4	4	9	17	9	8	3	輸送合理化で3公園各1台
18	トラック 4t積 170馬力 4×4	1	4	6	11	6	5	*	車種統一と合理化で削除
19	ダンプ車 8t積 220馬力 4×4	4	8	8	20	20	-	15	車種統一と兼用が可能な為
20	ダンプ車 8t積 220馬力 4×2	2	2	2	6	6	-	*	車種統一と合理化で削除
21	ダンプ車 4t積 170馬力 4×4	-	2	3	5	5	-	3	作業量等勘案し3台で可能
22	燃料タンク車 8t積 220馬力 4×4	-	4	4	8	4	4	3	〃
23	バキューム車 4t積 170馬力 4×2	1	-	1	2	2	-	2	要請通り
24	レッカー車 14t積 170馬力 6×4	1	-	1	2	1	1	1	〃
25	折戸型自走車 長さ300m 1.8t 6×4	1	-	-	1	1	-	*	専門の請負作業が適切な為
26	折戸型自走車 170馬力 6×4	1	-	-	1	1	-	*	〃
27	トレーラトラック 30t積 6×4	1	1	1	3	2	1	1	使用頻度上1台で充足可能
28	同上の付随トレーラ 30t積	-	2	2	4	2	2	*	不合理で無駄なため削除
29	4輪トラック 60馬力 4×2	3	4	5	12	3	9	*	トラックで用途が足りる為
30	4輪トラック 30馬力 4×4	1	4	4	9	6	3	*	〃
頁の計		61	72	101	234	176	58	97	

機種数	機 械 名	5年間分の要請台数				導入期別数		本計画の査定台数	摘 要
		台数	台数	台数	計	1期	2期		
31	モーター 115馬力 3.7m	1	8	8	17	9	8	7	各1.3.3台で足りる為
32	踏式発動機 90馬力 7 屯	1	4	4	9	6	3	3	各1.1.1台で足りる為
33	ドーザンベル 130馬力 1.6m ³	1	4	4	9	5	4	3	”
34	ホーロー 110馬力 1.7m ³	—	—	1	1	1	—	*	作業上不要の為
35	カドザ 160馬力 リア付	—	—	1	1	1	—	1	要請通り
36	調理工作車 機器1式	1	1	1	3	3	—	2	91年に1台配置済みの為
37	トレー 3m ³ 積	1	—	—	1	1	—	*	トラックで足りるため
38	タンクトレー 5ト積	—	—	—	—	—	—	—	
39	燃料タンクトレー 1000.L積	1	2	—	3	3	—	3	要請通り
40	水タンクトレー 1000.L積	2	4	4	10	10	—	5	各1.2.2台で足りる為
41	小型発動機 300kg積	1	4	4	9	6	3	3	各1台ずつで足りるため
42	コンクリートミキサ 300.L積	1	4	4	9	6	3	3	”
43	芝刈り機 5馬力版	2	2	3	7	7	—	*	現有機の活用で足りる為
44	草刈り機	3	4	4	11	6	5	*	”
45	チェーン 6馬力 50cm	1	1	2	4	4	—	4	要請通り
46	コンクリート攪拌機 6馬力 50cm	1	4	4	9	6	3	3	各1台ずつで足りる為
47	アスファルト散布機 500.L積	1	1	1	3	3	—	1	使用頻度上1台で足りる為
48	器木ポンプ 30馬力 750.L/分	2	2	5	9	6	3	6	要請通り
49	ディーゼル発電機 30KVA	3	5	5	13	9	4	3	各1台ずつで足りる為
50	発電機用エンジン	—	—	—	—	—	—	—	
51	防犯カメラ 径20×深100cm	1	—	1	2	2	—	2	要請通り
52	無線機	—	—	—	—	—	—	—	
53	事務所の備品	—	—	—	—	—	—	—	
54	航空機								
A	小型単発 新機 2人座 180馬力	1	1	1	3	3	—	*	計画目的等に不適當な為
B	小型単発 新機 4人座 250馬力	—	1	1	2	2	—	*	”
C	小型双発 新機 6人座 300馬力	—	—	—	—	—	—	—	
D	ヘリコプター 7人座 600馬力	1	—	—	1	1	—	*	”
55	船 舶								
B	巡視用ボート 70馬力 12人乗り	—	2	1	3	3	—	2	各1隻ずつで足りる為
C	巡視用ボート 50馬力 6人乗り	—	1	1	2	2	—	*	上記で足りる為
車両・建機・空機・船舶の計		87	127	161	375	276	99	148	
56	修理工場用の機器具	1式	1式	1式	3式	3式	—	3式	供与機材に見合うものとす
総 計									

第5章 結論および提言

5-1. 結 論

今回の事前調査は、主に 道路補修維持用の建設機械および公園管理用の各種車両等の供与について、現地調査を行ったものであるが、併せて、ケニア政府およびKWS公社によって進められている全体事業計画と、各援助国の援助動向やその内容等についての聴取、および我が国が関心を有する教育センター等の整備見通しについても、それらの情報収集を行い、状況把握をしたものである。

ケニア側が国立公園管理を確実に実践するためには、野生生物の管理面を充実することだけではなく、KWS公社が運営上独立採算を求められている公共機関であることも加味して、それらの事業財源を独自に確保することが必要である。そのためにも多くの観光客が、サファリ用バス等の中から野生動物の自然生態を安全快適に観察できるよう、公園内の道路を補修整備することは、悪路の多い現状からは緊急課題であると思われる。これら道路の改善によって、公園に来訪する観察客の数が増加する事は必至で、入園料の増収にも直接寄与するため、今回日本側が協力を予定している道路補修機材および公園管理車両等の供与は、全体事業計画を推進するためにも重要である。

本要請案件に関係する野生生物保護管理の全体計画は、1992年1月から世銀融資によって始動する予定であるが、他の援助諸国の動きは未だに不明確な点も多い。しかし、それらとの関連のみを考えずに、我が国の援助（機材供与）のみでも、小規模ながら独自に完結できる援助対策として考える必要がある。また、特に機材供与後の維持管理費等については、発足したばかりのケニア野生生物公社に過度な負担にならないよう、その規模や内容等について、充分検討すべきである。

従って、初期の機材内容は、ケニア側で独自に維持管理が確実に行えるものに限定し、その機材が有効に活用され、管理が充分なされるならば、日本としても次の展開を前向きに検討するような考え方も必要であると思われる。また当面は、協力隊員が機材の補修と整備の指導に協力中である事の有利性も考慮の対象に加え、ケニア側の要請によるナイロビ、西ツァボ、東ツァボの3国立公園を対象にして、

- ① 道路の補修改良用の重機械と車両類。
- ② 野生生物の保護と管理用の車両類。
- ③ それら機械車両の整備に必要な機械修理工場用の機器具類。

について、適正な数量と仕様によるものを、今回の供与内容にする事が適当と判断する。

5-2. 提 言

このプロジェクトへの参画は、アフリカの野生生物保護管理行政そのものに対する日本として初めての試みであるが、今後とも、この分野はアフリカ各地で次第に増加するものと見られるので、この経験を蓄積して、将来の指標とするためにも、この案件には積極的な対応が必要と考えられる。

世銀の主導と参加ドナー間の協調という、このプロジェクトの特質から、ここでは日本独自の援助システムを直ちにそのまま適用できないという不自由さはあるが、反面、かつて経験したことのない新たな分野の援助であるため、全ての計画を日本が自力でうちたて管理して行くという大きな負担や危険性は少ない。また、各国ドナーとの協調を図って、担当分野への支援を進めながら、他のドナーの動向を見つめて行くことで、初めて取組む日本が、この分野における援助の意義と手法について学ぶところは大きいと思われる。

ところで、ケニア国においても、野生生物保護に関して、取り組むべき具体的な施策は多岐にわたるものであり、我が国としても、単に車両機材等の供与に留まるものではなく、内外の人々に我が国が野生生物保護の分野で貢献していることを示すためにも、良い機会である事を充分認識し、この計画には真剣に取り組むべきであると思われる。

ナイロビの教育センターについては、我が国として関心のある事業であるが、既に世銀の援助で建設されるとの事であり、ワシントン動物学会等からは専門家を派遣するなどの動きがあることも聞かれる。そのため、我が国として同センターの建設に関与することは困難と思えるが、教育センターはケニアの国立公園や野生生物について、内外の利用者により理解を深めてもらうために重要な施設であり、ナイロビ以外の公園においても整備が必要なものである。こうしたことから将来的には同種のセンター等に、何らかの形の協力を検討する必要があると思われる。

なお、今回の調査を通じて、KWS公社の全体事業計画の実施方法、各援助国の具体的な援助内容等については、各国ドナーとも具体的な計画を策定中であったため、明確に把握することは困難であったと言わざるを得ない。各国援助機関のスタッフが、これまでの野生生物保護分野の援助活動を通じ、KWS公社やケニア政府とパイプを持って、適切な情報を得た上で、より効果的な援助を行うとしているのに比べ、我が国はこの分野での援助実績がなく、十分な情報を得ることが出来ない状態に現在はあると云える。このため、我が国からも、ソフト面での専門家派遣等を通じて、KWS公社とのパイプを強固なものとし、より建設的な施策の提案を行うことが出来るようように、協力体制の整備が必要である。

KWS公社への専門家派遣は、日本が今後もドナーとしてプロジェクトに関与して行く上で、不可欠な要素と考えられる。KWS公社からの要請に備え、既に野生生物保護管理企画担当の長期専門家派遣の用意はあるが、プロジェクトの進展を背景として別途KWS公社から車両整備の長期専門家が打診されている。この専門家は、KWS公社本部の車両整備部門に上級管理職として、或るいはそれと同等の地位にあるアドバイザーとして在職し、車両整備の技術指導とともに、車両運行システムの設立や全国の車両整備の体制拡充等の業務が期待されることになるとみられる。

KWS公社の基盤施設整備部門においては、建設機材、車両等を統一機種として導入したいとの意向を持っている。このプロジェクトに対する援助で、車両、建設機械の供与が、KWS公社の車両整備体制の確立や整備部門の充実に役立つことは重要課題でもあるため、この要請に対しては前向きな検討を回答している。これに伴い、最終的にはこのプロジェクトをより効果的にするため、野生生物保護または管理部門等の専門家や車両の専門家を各1名派遣することも検討の必要があると考えられる。

ケニア共和国・野生生物保護計画

事前調査報告書

付 属 資 料

目 次

A. 調査団の構成	付-1
B. 調査日程	付-1 ~付-4
C. 面談者リスト	付-5 ~付-7
D. 会談協議記録と入手資料	付-8 ~付-50
E. ミニッツと改定要請機材リスト.....	付-51~付-63
F. 収集資料リスト	付-64~付-66

平成3年10月

付 属 資 料

A. 調査団の構成

- (1) 団長(総括) 中村三樹男 外務省経済協力局無償資金協力課・無償援助審査官
- (2) 団員(国立公園管理) 新井 正久 環境庁自然保護局施設整備課・・・課長補佐
- (3) 団員(野生生物保護) 西川 和夫 財団法人・日本野生生物研究センター
- (4) 団員(機材計画Ⅰ) 小林 順造 財団法人・日本国際協力システム・・・専門調査員
- (5) 団員(機材計画Ⅱ) 西山 栄徳 財団法人・日本国際協力システム・・・専門調査員

B. 調査日程

No	月/日	曜	行 程	主 な 調 査 行 動 等
1	9/25	水	東京(成田)⇒フランクフルト 14.05発 (LH-711) 19.00着	5団員 (フランクフルト泊)
2	9/26	木	フランクフルト⇒ナイロビ 10.30発 (LH-580) 19.35着	5団員 ナイロビ着・調査日程等の協議 (ナイロビ泊)
3	9/27	金	ナイロビ	JICA事務所で日本大使館と合同協議 世銀ナイロビ事務所・表敬協議 JICA事務所長主催昼食会 野生生物公社(KWS)表敬協議 観光・野生生物省(MTW)表敬協議 KWS主催歓迎パーティー
4	9/28	土	ナイロビ⇒東ツァボ国立公園 9.00発 (KWS専用) 10.00着 東ツァボ国立公園 ツァボ町	5団員・JICA 5名(境・内野・岡・松本・北村) KWS 2名(キフリア副課, カマウ土課)の 12名、KWS専用航空機2台で移動 東ツァボ国立公園事務所長より概要聴取 機材修理工場・教育訓練センター・公園 内各種道路・橋梁・暗渠状況等の視察調査 全員12名ツァボ町に自動車で移動(同泊)
5	9/29	日	西ツァボ国立公園 西ツァボ⇒アンボセリ国立公園 15.00発 (KWS専用) 15.30着	5団員・JICA 5名・KWS 2名の全員 西ツァボ国立公園事務所長より概要聴取 機材修理工場・密漁防止用銃器保管庫 無線室・公園内の電線柵・地下水揚水機 各種道路状況等の視察調査 全員12名アンボセリに航空機2台で移動 (アンボセリ泊)

No	月/日	曜	行 程	主 な 調 査 行 動 等
6	9/30	月	アンボセリ国立公園 アンボセリ国立公園⇒ナイロビ 15.50発 (KWS朝機) 16.30着	5団員, JICA 5名, KWS 2名の全員 アンボセリ国立公園事務所長より概要聴取 機材修理工場・地下水揚水機場と送水管 各種道路と砂利採取場・野生生物脱境防 止柵・空濠(Moat)等の視察調査 全員12名ナイロビに航空機2台で移動 (ナイロビ泊)
7	10/01	火	ナイロビ⇒ナクール湖国立公園 9.15発 (自辦3台) 11.30着 ナクール湖国立公園 ナクール国立公園⇒ナイバシャ 15.50発 (自辦3台) 16.40着 国立ナイバシャ技術訓練所 ナイバシャ ⇒ ナイロビ 18.00発 (自辦3台) 19.50着	5団員・JICA 4名(境・岡・松本・北村)・ KWS 2名の11名, 自動車で行行 ナクール湖国立公園事務所長より概要聴取 機材修理工場・破損機械置場・教育訓練 センター・野生生物脱境防止電柵・各種 道路状況等の視察調査 全員ナイバシャに移動 国立ナイバシャ技術訓練所長より概要聴取 訓練所構内の各施設(教室・講堂・研究試 験室・宿舎・機械保管庫運動場)等の視察 調査 全員ナイロビに帰行 (ナイロビ泊)
8	10/02	水	ナイロビ	JICA事務所で調査結果の報告と協議 5団員, JICA事務所長・高畑次長 境所員 KWS本部で調査結果の対象公園等協議 ナイロビ国立公園 機材修理工場・各種道路・橋・暗渠・貯水池 電柵等の状況視察調査 ケニア大蔵省外国援助局表敬協議
9	10/03	木	ナイロビ (午前) (午後)	5団員 JICA事務所で協議 英国ODA事務所を表敬・状況聴取・協議 米国USAID事務所を表敬・状況聴取・協議 KWS公社本部より質問回答書の1部を受理 日本大使館・JICA共催の夕食会
10	10/04	金	ナイロビ (午前) (午後)	5団員, JICA境所員等 KWS公社本部でリーキー総裁等と協議 質問回答書の残部を受理 KWS公社本部で協議 KWS総裁等と世銀・米国・オランダ各国員 幼病野生生物保護園の施設を視察調査
11	10/05	土	ナイロビ (午前) (午後)	5団員 調査団の調査結果について全員打合せ協議 調査資料整理
12	10/06	日	ナイロビ	5団員 調査資料整理

No	月/日	曜	行 程	主 な 調 査 行 動 等
13	10/07	月	ナイロビ (午前)	5団員, JICA 2名 (境・メニア女史) KWS公社本部でミニッツ署名交換 KWSリーキー総裁等5名 調査団主催の昼食パーティー KWS, 世銀・各国関係者・日本大使館と JICA事務所の関係者, 報道機関等 JICA事務所にミニッツ等の報告挨拶 日本大使館に調査結果とミニッツ等の報告
			(午後)	
			ナイロビ	小林・西山の2団員は残留 (ナイロビ泊)
14	10/08	火	⇒ チューリヒ (SR-283) 05.30着	中村団長・新井・西川の3団員帰国途上 (チューリヒ泊)
			ナイロビ ⇒ メルー国立公園 9.00発 (KWS朝機1台) 10.00着 メルー国立公園	小林・西山2団員, JICA 3名 (境・岡・北村) KWS 2名 (キフリア 課長, カマウ 林課) 計7名, KWS専用航空機1台で移動 メルー国立公園事務所長より概要聴取 機材修理工場・破損機械置場・野生生物 脱境防止電柵・各種道路・潜水橋暗渠状 況等の視察調査、および小型機で空察 (メルー泊)
15	10/09	水	チューリヒ ⇒ (東京) 12.45発 (SR-166)	中村団長・新井・西川の3団員帰国途上 (機中泊)
			メルー国立公園 メルー国立公園 ⇒ ナイロビ 14.40発 (KWS朝機1台) 15.20着	2団員, JICA 3名, KWS 2名の全員 メルー国立公園の視察調査 各種道路、タナ川とロジェウエロ川合流 点迄の状況視察調査 メルー国立公園事務所長より追加概要聴取 2団員, JICA 3名, KWS 2名の全員 (ナイロビ泊)
16	10/10	木	⇒ 東京(成田) 08.45着	中村団長・新井・西川3団員, (日本帰着)
			ナイロビ (大統領誕生記念日) (午前) (午後)	2団員 調査資料の整理 同上
17	10/11	金	ナイロビ (午前) (午後)	2団員 KWS公社本部でキフリア課長と協議 質問回答書の内容質問聴取 KWS公社本部でキフリア課長と協議 各公園の要請機材リストの内容質問聴取 JICA事務所に経過報告
18	10/12	土	ナイロビ	2団員 調査結果について打合せ協議
19	10/13	日	ナイロビ	2団員 調査資料整備

No	月/日	曜	行 程	主な調査行動等
20	10/14	月	ナイロビ (午前) (午後) (夜)	小林・西山の2団員 KWS公社本部でキフリア機材課長と協議 各要請機材の仕様内容を個別聴取検討 KWS公社本部でキフリア課長と協議 各要請機材の仕様内容を個別聴取検討 JICA事務所に調査状況の報告 KWS要請機材の概算金額を積算検討
21	10/15	火	ナイロビ (午前) (午後) (夜)	2団員 KWS公社本部でキフリア課長と協議 各要請機材の仕様内容を個別聴取検討 KWS公社本部でキフリア課長と協議 各要請機材の仕様内容を個別聴取検討 KWS要請機材の聴取結果を整理
22	10/16	水	ナイロビ (午前) (午後) (夜)	2団員 KWS公社本部でキフリア課長と協議 質問回答書の不足資料について聴取 KWS公社本部でキフリア課長と協議 各要請機材の仕様内容を個別聴取検討 入手資料の内容検討と再質問点の整理
23	10/17	木	ナイロビ (午前) (午後)	2団員 KWS公社本部でキフリア課長と協議 入手資料の再質問と回答不足資料の聴取 ナイロビ国立公園の道路状況を視察調査 KWS公社本部でキフリア課長と協議 質問回答書の内容個別聴取 質問回答書の差し替え資料を入手 新要請機材リスト(17日版)を入手
24	10/18	金	ナイロビ (午前) (午後)	2団員 KWS公社本部でキフリア課長と協議 質問回答書の内容質問聴取 17日付け要請機材リストの修正協議 KWS公社本部でキフリア課長と協議 要請機材表の最終版を入手 JICA事務所に経過報告(機材表提出) 日本大使館に経過報告(機材表提出)
25	10/19	土	ナイロビ⇒ナクール湖国立公園 08.30発(船1台) 11.30着 ナクール湖国立公園⇒ナイロビ 17.10発(船1台) 19.30着	2団員, JICA1名(北村), KWS1名(キリア) ナクール湖国立公園 東岸側の各道路・橋・暗渠・電柵等の 状況視察調査 全員ナイロビに帰行
26	10/20	日	ナイロビ	2団員 調査資料整理
27	10/21	月	ナイロビ 23.35発(SR-283) ⇒	小林・西山の2団員帰国出発 (機中泊)
28	10/22	火	⇒ チュ-uriヒ(SR-283) 05.30着	2団員帰国途中 (チュ-uriヒ泊)
29	10/23	水	チュ-uriヒ(SR-166)12.45発 ⇒	2団員帰国途中 (機中泊)
30	10/24	木	⇒ 東京(成田) 08.45着	小林・西山の2団員 (日本帰着)

C. 面談者リスト (※印は、主な会談者)

1. 在ケニア日本国大使館

所在地 ICED Building 15 Floor. Kenyatta Avenue. Nairobi. Kenya.
(P.O.Box, 60202)

- (1) 参事官 岡部 孝道
- (2) 1等書記官 ※ 有安 敬

2. 国際協力事業団(JICA)ケニア事務所

所在地 Matungulu House. 3.Floor. Mamlaka Road. Nairobi. Kenya.
(P.O.Box 50572)

- (1) 所長 ※ 森本 勝
- (2) 次長 ※ 高畑 恒雄
- (3) 所員 ※ 境 勝一郎
- (4) 囑託コンサルタント Mrs. Martha Menya
- (5) JOCV調整員 内野 直也
- (6) 青年海外協力隊員 岡 祐巳 東ツァボ国立公園 (配属)
- (7) 青年海外協力隊員 松本 辰也 西ツァボ国立公園 (配属)
- (8) 青年海外協力隊員 北村 仁志 ナイロビ国立公園 (配属)

3. ケニア大蔵省 (Ministry of Finance)

- (1) 事務次官 (Permanent Secretary) Mr. Charls S Mbindyo

外資局 (External Resouces Division)

所在地 Thi Treasury. Harambee Avenue. P.O.Box 30007. Nairobi. Kenya.

- (2) 外資局長 (Director of External Resouces Division) ※ Dr. Ongalo
- (3) 外資局日本担当員 (Under Secretary. Japan desk) Mr. Chiboli Shakaba
- (4) 外資局秘書 (Assistant Secretary) Mrs. D.K. Musau

4. ケニア観光・野生生物省 (Ministry of Tourism and Wildlife : MTW)

- (1) 財務官 (Accounting Officer) ※ Mr. George Mitine

5. ケニア野生生物公社 (Kenya Wildlife Service : KWS)

KWS本部・所在地 (P.O.Box, 40241) Nairobi, Kenya.
(Tel: 501081/2. Fax: 505866. 501752)

- (1) 総 裁 (Director)
※ Dr. Mr. Richard E Leakey
- (2) 特別顧問 (Special Assistant for Director)
※ Mr. David Mwiraria
- (3) 技術サービス部 (Technical Services Department)
機械通信課長 (Chief of Mechanical and Telecommunication Section)
※ Mr. L. N. Kihuria (Chief Mechanical Engineer)
- (4) 技術サービス部
道路フェンス課長 (Chief of Roads and Fences Section)
※ Mr. Cyrus M Kamau (Chief Civil Engineer)
- (5) 営業管理部 (Commercial Managing Department)
計画・方針・アドバイザー (Policy and Planning Adviser)
Mr. Robert Bensted Smith
- (6) 営業管理部
生産開発課長補佐 (Assistant of Production Development Section)
Mr. B. G. Kinuthia
- (7) 財務部 (Finance Department)
財務調整課長 (Chief of Finance Controller Section)
Mr. P. M. Kagiri

各国立公園事務所 (National Park Headquarters)

- (8) 東ツァボ国立公園事務所長 (Warden of Tsavo East National Park Headquarter)
※ Mr. S. M. Gichangi (Warden)
- (9) 西ツァボ国立公園事務所長 (Warden of Tsavo West National Park Headquarter)
※ Mr. Simon Ole Makallah (Senior Warden)
- (10) アンボセリ国立公園事務所長 (Warden of Amboseli National Park Headquarter)
※ Mr. Naftali M Kio (Warden)
- (11) ナクール湖国立公園事務所長 (Warden of Lake Nakure National Park Headquarter)
※ Mr. Alfred Mayoli Kisee (Warden)
- (12) メルー国立公園事務所長 (Warden of Meru National Park Headquarter)
※ Mr. Jacob Ikunya (Senior Warden)

6. ケニア国立ナイバシャ野生生物・水産漁業・教育訓練専門学校
(Naivasha Wildlife and Fisheries Training Institute)

(1) 訓練専門学校・校長 (Principal of Training Institute)
※ Mr. F.U. Partet

(2) 専門学校・教官 (Warden)
Mr. Joseph K Waruter

(3) 専門学校・教官 (Instructor)
Mr. George Ndiege

7. 世界銀行ナイロビ事務所 (World Bank Nairobi Office)

〔注記〕 ナイロビ市に在る世銀の本案件担当機関の正式名称は、
世界銀行 農業指導部 東アフリカ課 ケニア地域 ナイロビ事務所

World Bank of Agriculture Operations Division.
Eastern Africa Department. Kenya Region. Nairobi Office.

(1) 上級森林専門家 (Senior Forestry Specialist)
※ Mr. Chris E. M. Keil

(2) 東アフリカ・ミッション員 (Mission in East Africa)
Mr. Gajan Pathmana Than

8. 英国海外開発庁ナイロビ駐在 (ODA British Development Division in East Africa)

(1) 駐在員 ※ Mr. Adam Wood

9. 米国・国際開発局ナイロビ駐在 (USAID Nairobi Office)

(1) 農業開発事務所 (Agricultural Development Office)
※ Mr. James. F. Dunn

10. オランダ大使館 (Royal Netherlands Embassy)

(1) 農務駐在官 (Agricultural Attache)
※ Mr. Nico Visser

D. 会談協議記録と入手資料

1. 平成3年9月27日・JICAケニア事務所 (9時05分～11時30分)

(1) 会談協議出席者

大使館：有安1等書記官
JICA：森本所長、高畑・境・内野・メニア女史
調査団：中村団長、新井・西川・小林・西山

(2) 協議の要点

① JICA事務所からの最新情報

- * ケニア野生生物公社(KWS)から、森本所長宛に、今回の事前調査団用として、1991年9月24日付けの文書(機材リスト添付)が届いているので、その写しを調査団に渡す。-----〔注記・後掲添付参照〕

発信日付・文書番号：1991.9.24. KWS/RES/12/8/VOL.1(111).
文書件名：PRELIMINARY STUDY TEAM FOR GRANT AID.
WORD LIFE CONSERVATION PROJECT.
発信者：KWS総裁に代わってキフリヤ(機械通信課長)
宛先：JICAケニア事務所 森本 勝 所長
文書要旨：国立公園6ヶ所の優先順位と下記6種の添付資料
添付の6資料：①道路改良補修のマスタープラン
②KWS公社本部の機械通信課の組織
③6公園機械修理工場(Workshop)の格付表
④6公園機械修理工場(Workshop)組織人員表
⑤6公園の要請機材リスト
⑥6公園機械修理工場の要請機器具表

- * KWSの運営は、職員給与(Salary)は国家予算から支出し、運営費(Operation Costs)はKWSの事業収入で、行うことになっている。
- * KWSは、機械修理工場(Workshop: W/S)の新設計画として、中央W/Sをナイロビに、その下部機構として、全国を8地域に分け各地域W/Sを置き、その下に各公園毎のW/Sを置くと云う、3段階方式を考えている。
- * 世銀が、教育訓練センター(Education Center)の建設を分担することになった。参考迄に、調査団は、ナイバシャの技術訓練センターを見て欲しい。

② 調査団長の意見

- * 要請機材の対応は、6公園へのバラ播き式ではなく、供与後の維持管理等を考慮し、幾つかの特定公園に集中したい。
その対象公園の選択には、十分な調査を行って対処したい。
- * 今回調査後には、基本設計調査（B/D）を行う必要があるかも知れない、何れにしても現状（Operation）をよく調べたい。

③ JICA事務所側の意見

- * 本要請案件の経緯は、当初『ゾウ、サイ増殖計画』が発端で、その後は世銀の関与により、国立公園に対する総合的な要請に替わり、人材訓練、観光センター、密猟防止用の車両、道路補修用の建機、機械修理工場（W/S）、およびその他であったが、段々と車両・建機・補修機器等にしぼられてきている。
- * 今回は、機材供与のみか、W/Sも含ませるのか、見極めて欲しい。
- * 日本の支援対策として、将来的には、技術協力（技協）の専門家をKWSに送り込みたいので、その可能性を見極めて欲しい。また、その事をケニア側に伝えて欲しい。当方のA1フォームに関しては、KWSリーキー総裁の判断待ち状態である。
- * 技協の事は、調査団レポートに入れておいて欲しい。
- * 車両は、消耗が激しいので、その部品について、よく調査して欲しい。
- * 車両関係の協力隊員は得られるが、建設機械の協力隊員は応募難が予想される。
- * 要請機材の車両類は、動物保護官（Renger）用なのか、事務所の管理用なのかを、見極めて、対処する必要がある。
- * 先方に、日本の無償援助システム、特に単年度予算制度の点を知らせてやって欲しい。
- * ドイツをはじめ、他国ドナーの対応状況をも良く調査して欲しい。

HEADQUARTERS PO Box 40241, Nairobi, Kenya Telephone: 501081-7 Fax: 505866, 505752

KWS/RES/12/8/VOL.1/(1111)

21th September, 1991

Mr. M. Morimoto,
Resident Representative,
JICA, Kenya Office,
P.O. Box 50572,
NAIROBI

Dear Sir,

RE: PRELIMINARY STUDY TEAM FOR GRANT AID, WORLD LIFE
CONSERVATION PROJECT

Thank you yet again for your generous offer which when implemented will be highly beneficial to Kenya Wildlife Service.

In response to your request that came through a letter Ref. No. 3-927(SG), where you sought specific information concerning our Meru, Nairobi, Nakuru, Amboseli, Tsavo East and Tsavo West National Parks (in order of priority), enclosed please find:-


1. The Master Plan of the Parks Roads Infrastructure.
2. A list and number of equipment available and that which is required.
3. A list of Personnel available in specialized areas and the total required.
4. A list of existing and proposed Maintenance Workshops.
5. A list of desired workshop equipment and tools.
6. Kenya Wildlife Service proposal.

With regards to our future plans for the personnel and the equipment, we hope to do the following:-

1. Personnel
 - Sub-ordinate Staff - Train those involved in maintenance and the running of the equipment.
 - Graded Staff - Give them more specialized training.
 - Additional Staff - Recruit more Staff (qualified).
2. Equipment
 - Repair and rehabilitate equipment that which is economical to retain.
 - Replace uneconomical equipment.
 - Procure additional needed equipment.

We will be available to give you further information, should you require. With gratitude we look forward to the implementation of this project.

Yours faithfully,



I.N. KIHURIA
FOR: DIRECTOR

Enc.

〔付表-1〕 野生生物保護計画の対象6国立公園の道路補修整備計画
Protected Areas and Wildlife Service Project
Master plan for Road Rehabilitation
Dete. 26-sep-1991. KWS.HQ.

区 分	請負の改良補修 Rehabilitation by Contract		改良補修の person 費 Rehabilitation by Force Account		路面整地の person 費 Maintenance by Force Account	
	延長 km	百、シツツ	km	M, KSH	km	M, KSH
①ナイロビ Nairobi	20	6.00	191	9.55	211	15.55
②西ツァボ Tsavo West	60	18.00	1095	54.80	1155	72.80
③東ツァボ Tsavo East(橋)	1028	318.40	914	45.70	1942	364.10
④アンボセリ Amboseli	89	26.70	349	17.45	438	44.15
⑤ナクール湖 Lake Nakuru	75	22.50	151	7.55	226	30.05
⑥メルー Meru (bridge)	353	135.90	873	43.65	1226	179.55
合 計 Total	1625	527.50	3573	178.70	5198	706.20

〔付表-2〕 野生生物公社 (KWS) 本部・機械通信課の組織人員
Kenya Wildlife Service, (H.Q.s), Mechanical Division, Establishment
Dete. 26-Spe-1991. Nairobi

No	職 種 Title	資 格 Qualifications	編成人員 Establishment
01	主任機械技師 (課長・兼任) Chief Mechanical Engineer	有資格技術者 Registered Engineer	1 人
02	副主任機械技師 Deputy Chief Mecha, Engineer	有資格技術者 Registered Engineer	1
03	上級機械技師 Senior Mechanical Engineer	有資格技術者 Registered Engineer	1
04	機械技師 Mechanical Engineer	基礎学終了 Minimum Basic	1
05	コンピュータ操作員 Computer Operator		1
06	秘書 (務) コンピュータ操作員 Secretary / Computer Operater		1
07	事務主任 Clerical Operator		3
08	会計係員 Cost Accountant		1
09	コピィタイピスト Copy Typist		1
10	伝令員 Messenger		2
	合 計 Total		13 人

ケニア野生生物公社 (KWS) 国立公園6ヶ所の付属機械修理工場 (W/S) 職員の現状と新規増員予定表
Kenya Wildlife Service. National Park. Workshop Establishment

〔注記〕 表中の各国立公園の人数 (例: 0/1) は、現在人数/新規増員予定数、を示す。 (1/3)

NO	国立公園 National Park	階級 Qualification	ナイロビ Nairobi	西ツボ Tsavo West	東ツボ Tsavo East	アンボセリ Ambo-seli	ナクル Lake Nakuru	メル Meru	合計 Total
	職種 Rank								
01	工場長 Senior W/S. Manager	H.N.D	0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2
02	工場長 W/S. Manager	Tech. III	1 / 0	0 / 0	1 / 0	0 / 0	0 / 1	1 / 0	3 / 1
03	工場長補 Asst. W/S. Manager	III	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 3
04	監督 Inspector	Tech. III	0 / 4	0 / 1	0 / 3	0 / 0	0 / 3	0 / 3	0 / 14
05	機械工 Plant Mechanic	Grade. I	1 / 2	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	1 / 7
		II	1 / 3	0 / 1	1 / 1	0 / 0	0 / 2	1 / 0	3 / 7
		III	0 / 1	0 / 1	0 / 1	1 / 0	0 / 1	0 / 1	1 / 5
06	自動車機械工 M.V. Mechanic	Grade. I	6 / 2	0 / 2	2 / 0	0 / 1	2 / 0	0 / 2	10 / 7
		II	4 / 6	1 / 3	1 / 3	1 / 1	2 / 2	0 / 4	9 / 19
		III	6 / 4	2 / 1	3 / 0	2 / 0	1 / 2	2 / 1	16 / 8
07	自動車電気工 M.V. Electrician	Grade. I	1 / 1	0 / 0	1 / 0	0 / 1	0 / 1	1 / 0	3 / 3
		II	0 / 3	0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 7
		III	1 / 2	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	1 / 6
08	電子機械工 Electronic. Mech.	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		II	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 4
		III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
09	燃料噴射機工 Fuel Injection	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		II	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 4
		III	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
10	サービス助手 Service Attendant	Grad. III	0 / 3	0 / 1	1 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	1 / 7
11	ディーゼル組立工 Diesel Fitter	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		II	0 / 0	0 / 0	0 / 2	0 / 0	0 / 2	0 / 2	0 / 6
		III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
頁の計 Total			21 / 36	3 / 14	10 / 16	4 / 7	5 / 21	5 / 19	48 / 113

〔注記〕 表中の各国立公園の人数(例: 0/1)は、現在人数/新規増員予定数、を示す。(2/3)

国立公園 National Park		階級	ナイロビ	西ツァボ	東ツァボ	アンボセリ	ナクル湖	メル	合計
NO	職種 Rank	Qualification	Nairobi	Tsavo West	Tsavo East	Ambo-seli	Nakuru	Meru	Total
12	板金 Panel Beater	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		” II	0 / 4	1 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	1 / 7
		” III	3 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	3 / 4
		no grade	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
13	吹付け板金 Spray Painter	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		” II	0 / 2	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 5
		” III	0 / 3	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 3
		no grade	2 / 2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	2 / 2
14	塗装 Painter	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		” II	0 / 0	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
		” III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
15	溶接 Welder	Grade. I	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
		” II	1 / 0	2 / 0	0 / 2	0 / 0	0 / 1	0 / 1	3 / 4
		” III	0 / 1	0 / 1	2 / 0	1 / 0	1 / 0	1 / 0	5 / 2
		no grade	2 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	2 / 0
16	溶接溶接工 Welder-Fitter	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		” II	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		” III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
17	溶接溶接工 Fitter & Turner	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		” II	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 4
		” III	0 / 2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 3
18	力持組工 Tin Smith-fitter	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1
		” II	0 / 2	0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 5
		” III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
19	内装 Upholster	Grade. I	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
		” II	0 / 2	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 5
		” III	0 / 2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2
		no grade	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
20	木工 Carpenter	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		” II	0 / 2	0 / 1	2 / 0	1 / 0	0 / 1	0 / 2	3 / 6
		” III	0 / 2	0 / 1	1 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	1 / 5
頁の合計 Total			11 / 30	4 / 4	5 / 8	1 / 2	1 / 9	1 / 10	23 / 63
前頁との累計 Sum Total			32 / 66	7 / 18	15 / 24	5 / 9	6 / 30	6 / 29	71 / 176

〔注記〕 表中の各国立公園の人数（例：0/1）は、現在人数/新規増員予定数、を示す。 （3/3）

国立公園 National Park		階級 Qualifi- cation	ナイロ Nairo- bi	西ツボ Tsavo West	東ツボ Tsavo East	アンボ Anbo - seli	ナクル Lake. Nakuru	メル Meru	合計 Total
NO	職種 Rank								
21	書記員 Sign Writer	Grade. I	0 / 0	0 / 0	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
		Grade. II	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 3
		Grade. III	0 / 1	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 3
22	管工 Plumber	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		Grade. II	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 4
		Grade. III	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		no grade	0 / 0	0 / 0	3 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	3 / 1
23	電気監督者 Superintendent Electrical (High Power)	Tech. I	1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
24	高電力電気工 Hi-power Electric	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		Grade. II	0 / 2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2
		Grade. III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
25	石工 Mason	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		Grade. II	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
		Grade. III	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
26	職工 I Artisan	Grade. I	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
		Grade. II	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0	1 / 0
		Grade. III	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0	0 / 0	2 / 0	3 / 0
		no grade	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0	0 / 0	0 / 0	1 / 0
27	補給班 Supplies Officer		0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
28	倉庫員 Storeman	Grade. I	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 4
		Grade. II	0 / 3	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 4
		Grade. III	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 6
		no grade	1 / 0	2 / 0	2 / 0	2 / 0	0 / 0	3 / 0	10 / 0
29	コスト計算員 Cost Accountant		0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1
30	コスト助手 Cost Asst.		0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 3
31	事務班 Clerical Officer		0 / 1	0 / 1	1 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	1 / 5
32	掃除員 Cleaner		2 / 3	6 / 0	0 / 2	0 / 1	0 / 2	0 / 2	8 / 10
33	工具修繕 Spanner Boxs		0 / 10	0 / 0	0 / 5	0 / 1	0 / 5	0 / 5	0 / 26
34	書記 Secretary		0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 1
35	写取 Copy Typist		0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2
36	伝言 Messenger		0 / 1	0 / 0	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 1	0 / 5
37	コンピュータ Computer Operator		0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 2
頁の合計 Total			4 / 29	8 / 6	7 / 14	4 / 8	0 / 15	6 / 14	19 / 86
総合計 General Total			36 / 95	15 / 24	22 / 38	9 / 17	6 / 45	12 / 43	90 / 262

KWS公社・6国立公園の要請機材リスト (1991年9月26日版)

Kenya Wildlife Service, National Park Equipment Inventory, (Date, 26-Sep-1991)

(1/2)

機種数	機名	現在保有台数 Available Quantities							新規の台数 Additional Requirement Qty.						
		ナロビ	西アボ	東アボ	アソビ	ナクル	ム	計	ナロビ	西アボ	東アボ	アソビ	ナクル	ム	計
01	自転車	-	-	-	-	-	-	-	5	2	12	1	15	10	45
02	オートバイ	-	-	-	-	-	-	-	3	2	6	1	4	1	17
03	乗用車	1	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	1	-	6
04	軽トラック 4座	2	1	-	2	1	-	6	3	2	3	6	4	-	18
05	ピックアップ 2座	-	-	1	-	-	-	1	2	4	4	2	9	4	25
06	ピックアップ 4座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07	ピックアップ 4座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
08	重ピックアップ	-	4	7	1	-	6	18	4	7	11	4	11	14	51
09	重ピックアップ 4座	-	-	-	-	-	3	3	1	1	2	2	2	3	11
10	トラック 4座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ステーションワゴン	-	1	1	2	1	1	6	7	7	8	3	4	7	36
12	軽ピックアップ	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	3	3	12
13	軽バ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
14	軽バ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
15	軽バ	-	-	1	-	-	-	1	-	1	2	-	2	1	6
16	トラック 2座 3t	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	-	1	5	13
17	トラック 4座 3t	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
18	トラック 2座 7t	-	-	-	-	-	-	-	4	5	9	1	5	10	34
19	トラック 4座 5t	-	-	1	-	-	-	1	1	4	5	-	-	6	16
20	トラック 2座 7t	-	-	-	-	-	-	-	4	4	6	4	4	12	34
21	水タンク 2座 7t	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	3	2	8
22	水タンク 4座 7t	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	5
23	燃料タンク 2座 7t	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	バキューム 2座 7t	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
25	ロッカー 4座 14t	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
26	折り畳み自転車	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
27	トレーラトラック	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	3
28	目の付いたトレーラ	1	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	1	-	1
29	4輪トラック 2座	1	-	2	-	-	-	3	1	1	1	1	2	-	6
30	4輪トラック 4座	1	1	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	1
31	モーターグー	1	1	1	1	1	-	5	2	3	3	2	2	5	17
32	燃料ローラ 10t	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
33	トラック ショベル	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	2	6
34	ホイールグー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	3
35	バルブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2
	頁の計	7	8	15	6	4	10	50	48	53	89	28	77	89	384

機種数	機械名	現在保有台数 Available Quantities							新規の台数 Additional Requirement Qty.						
		ナロビ	西カボ	東カボ	アソセ	ナクル	ムル	計	ナロビ	西カボ	東カボ	アソセ	ナクル	ムル	計
36	調理工作車 牽試	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	1	2	5
37	トレーラ 5t積	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	2	—	3
38	タンクトレーラ 日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
39	燃料トレーラ 1t積	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	1	—	2	7
40	水トレーラ 1t積	—	—	—	—	—	—	—	2	3	2	2	3	3	15
41	小型振動ローラ 1t	—	—	—	—	—	1	1	1	2	1	1	1	3	9
42	コンクリートミキサ	—	—	—	—	—	2	2	1	2	1	1	1	2	8
43	芝刈り機	—	1	3	—	—	—	4	1	2	3	—	3	—	9
44	草刈り機	—	1	4	—	1	1	7	3	3	2	—	2	3	13
45	チェーンソー	—	—	—	—	1	—	1	1	1	1	—	1	1	5
46	コンクリート振動	—	—	—	—	—	—	0	1	2	1	1	1	1	7
47	アスファルト散布機	—	—	1	—	—	—	1	1	1	1	1	1	2	7
48	掃木ポンプ	—	7	5	2	2	2	18	2	2	2	2	2	3	13
49	ディーゼル発電機	—	1	5	—	—	1	7	3	5	2	—	—	5	15
50	無線通信機用エンジン	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
51	燃料タンク	—	—	—	—	—	—	0	1	—	—	—	—	—	1
52	無線通信機	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
53	事務所の設備用品	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
車両機械の計		7	18	33	8	8	18	92	65	79	108	37	95	116	500
54	航空機														
A	小型単発機 2人座	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
B	小型単発機 4人座	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
C	小型双発機 8人座	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
D	ヘリコプター	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
航空機の計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55	船舶														
A	巡視用ボート	—	—	—	—	—	—	0	—	1	—	—	—	—	1
B	普通型ボート	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	2	2
C	上陸用舟艇	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	2	2
船舶の計		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	5
56	調理工場の器具	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
57	製粉工場のファン	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0
機具資材の計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

KWS公社・各機械修理工場の新編成計画・案 (1991年8月12日)
 WorkShop Facilities, (Existing and Proposed New Establishment) date.12--Aug-91.

〔注記〕

- ① 欄の A = 中央機械修理工場 (Central W/S) 1ヶ所, B = 地方 (Regional) W/S・5ヶ所
 C = 地区 (District) W/S・3ヶ所, D = 国立公園 (N.P.) W/S・9ヶ所,
 E = 点検整備場 (Service Shop) 1ヶ所, F = 点検台 (Service Plat Form) 4ヶ所
 ② 欄は、格付け別の建物面積, ③ 欄は、原案リストの通り, ④ 欄も、原案リストの通り。

各修理工場等の拠点 Station (N.P. = 国立公園・National Park)	修理工場 の格付 W/Shop Category ①	新建物全面積 (m ²) Area Sq.m ②	修理工場の現 在面積m ² W/Shop Ext. ③	車庫の面積 (m ²) Hanger Sq.m ④	摘 要 Remarks ⑤
(1) 海岸地方 シンバヒル Shinba Hills キウंगा Kiunga M.P. マリンディ Malindi M.P. ラム Lamu Town	C D E E	700 300 140 140		80	
(2) 東部地方 メルー Meru N.P. ガリッサ町 Garissa Town コーラ Kora N.P.	B D E	1170 240 140			現存は仮設建物 建物は現存 (Existing)
(3) 南部地方 東ツァボ Tsavo East N.P. 西ツァボ Tsavo West N.P. マニヤニ Manyani College チュル Chyulu N.P. イスムバ Ithumba	B C D E E	1170 700 240 140 140	300	80 80	建物は現存 現存は仮設建物 建物は現存
(4) ナイロビ地方 ナイロビ Nairobi N.P. アンボセリ Amboseli N.P.	A D	2200 240	240		建物施設等は更新 建物は現存
(5) 大地溝帯地方 ナクール Nakuru N.P. マサイマラ Masai Mara ナロック町 Narok Town エンタセゲラ Entasegera ニヴァシャ学院 Nivasha Institute	B D D E	1170 240 240 140			建物は現存 建物は現存
(6) 山岳地方 アバデラレ Aberdare N.P. ケニア山 Mt. Kenya N.P. ムエア Mwea	B E E	1170 140 140		80	建物は現存
(7) 北部地方 イシオロ/サンプル, キャンプ Isiolo/Samburu, Camp マルサビッツ Marsabit N.P. ロサイ Losai マルカマリ Malka Mali N.P. シビロイ Sibiloi N.P.	B D D D E	1170 300 300 300 140	240		建物施設等は更新 建物は現存
(8) 西部地方 エルゴン山 Mt. Elgon N.P. ルーマ Ruma N.P. ナソロット/ツルカナ Nasolot/s, Turkana	C E E	700 140 140		80	

KWS公社・新格付け別の機械修理工場等が備え付ける機器具リスト案・(1991年7月9日)
Workshop Tools and Equipment List (date.09-Jul-91)

〔注記〕 A = 中央機械修理工場 (Central W/S), B = 地方 (Regional) のW/S
C = 地区 (District) W/S, D = 国立公園 (N.P.) のW/S,
E = 点検整備場 (Service Shop), F = 点検台 (Service Plat Form)

(1/5)

No	品 目 種 類	Item Description	新格付け別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
			A	B	C	D	E	F
1	ラジエーター系統冷加装置テスター	Radiator Cap & Cooling system tester	2	2	1	1	1	.
2	ディーゼル排気量メーター	Diesel smoke meter	1	1	1	.	.	.
3	ディーゼル回転調整テスター	Diesel timing and tacho tester	1	1
4	ディーゼル圧力ゲージ	Diesel compression gauge	1	1	1	.	.	.
5	光学式エンジン照準内視鏡	Engine scope	1	1
6	タイミング ライト	Timing Light	2	2	1	.	.	.
7	電圧・電流・テスター	Voltage Ampere tester	2	2	1	.	.	.
8	コイル式コンデンサーテスター	Coil Condenser tester	2	2	1	.	.	.
9	カム角度・カム回転・テスター	Cam Angle & Tacho tester	1	1	1	.	.	.
10	ガソリンエンジン圧力ゲージ	Compression Gauge for Gas-line	2	2	1	1	.	.
11	ガソリン機関真空ゲージ	Vacuum Gauge for Gasoline Engine	1	1	1	.	.	.
12	バルブ スプリング計	Valve spring tester	1	1	1	.	.	.
13	ピストン感触ゲージ	Piston Feel Gauge	4	2	1	.	.	.
14	連結ロッド調整計	Connection Rod Aligner	1	1	1	.	.	.
15	噴射機器 テスター	Nozzle Tester	1	1	1	1	1	.
16	ノズル スコープ	Nozzle scope	1	1	1	.	.	.
17	直線定規	Straight Rule	2	2	1	1	.	.
18	ハンドスプリング・バランス	Handspring Balance	2	2	1	1	.	.
19	エンジン位置計測器	Engine Positioner	3	2	1	.	.	.
20	バルブ上げ高・圧縮計	Valve Lifter and Compressor	4	2	1	1	.	.
21	ハンド バルブ ラッパー	Hand Valve Lapper	4	3	1	1	.	.
22	シリンダーライナー引き抜き器具	Cylinder Liner Puller Set	1	1	1	.	.	.
23	シリンダーヘッド縁孔器具	Cylinder Head Edge Reamer	1	1	1	1	.	.
24	ピストン リング 工具	Piston Ring Tool	4	2	1	1	.	.
25	ピストン リング 圧縮計	Piston Ring Compressor	4	2	1	1	.	.
26	ピストン式万力器	Piston Vise	3	2	1	.	.	.
27	足先ゲージ	Toe in Gauge	1	1	1	.	.	.
28	10トン油圧ガレージジャッキ	Hydraulic Garage Jack 10 ton	4	4	2	1	1	.
29	移動式油圧ジャッキ	Portable Hydraulic Jack	2	2	1	.	.	.
30	固定式ジャッキ	Rigid Jack	16	12	8	4	.	.
31	滑車工具	Blocking Tool	4	2
32	螺旋状搬送器具	Service Creeper	6	4	2	2	1	.
33	作業台	Work Bench	12	6	4	3	1	.
34	技術作業用の万力器	Engineer's Vica	12	6	4	3	1	.
35	フライホイール用軸受け引き抜き器具	Flywheel Pilot Bearing Puller	3	2	1	.	.	.
36	変速器・ベアリング引き抜き器具	Transmission Bearing Puller	2	2	1	.	.	.
37	クラッチ アライナー	Clutch Aligner	3	2	1	.	.	.
38	ブレーキ ドラム ゲージ	Brake Drum Gauge	2	1	1	.	.	.
39	ショック ハブ 引き抜き器具	Shock Hub Puller	1	1	1	.	.	.
40	車輪ベアリング固定ナット引き抜き器	Truck Wheel Bearing Lock Nut Puller	4	3	2	1	.	.

品目		Item	新格付け別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
No	種類	Description	A	B	C	D	E	F
41	前ハブ ベアリング引き抜き器具	Front Hub Bearing Race Remover	1	1	1	.	.	.
42	自在式 後部シャフト引き抜き器具	Universal Rear Shaft Puller	1	1	1	.	.	.
43	ブレーキパイプ端 拡大用工具	Brake Pipe Flaring Tool Set	1	1	1	.	.	.
44	自動式 ブレーキ 増設器具	Automatic Brake Breeder	1	1	1	.	.	.
45	ブレーキ スプリング用 ペンチ	Brake Spring Plier	3	2	1	.	.	.
46	ブレーキ機用 マイクロフォン	Micro-Hone set for Brake Cylinder	1	1	1	.	.	.
47	クイック式 リベット打ち込み器具	Quick Riveter	3	2	1	.	.	.
48	クロス リム用 レンチ	Cross Rim Wrench	2	1	1	1	.	.
49	自在式 車輪 引き抜き器具	Universal Wheel Puller	2	1	1	1	.	.
50	自在式 转向ホイール引き抜き器具	Universal Steering Wheel Puller	1	1	1	.	.	.
51	タイロッド 端 引き抜き器具	Tie Rod End Puller	2	1	1	.	.	.
52	コイルスプリング 圧縮器具	Coil Spring Compressor	2	2	1	.	.	.
53	タイヤ 圧力ゲージ	Tyre Pressure Gauge	1	1	1	1	1	1
54	トラック ゲージ	Track Gauge	1	1
55	バルブ 修理用 工具	Valve Repair Tool	1	1	1	.	.	.
56	自在式 タイヤ 膨脹器具	Automatic Tyre Inflator	1	1	1	.	.	.
57	空気ポンプ(手動式)	Air Pump (Manual)	1	1	1	1	1	1
58	タイヤ レバー	Tyre Lever	3	2	2	1	1	1
59	タイヤ サービス用 組器具	Tyre Service Tool set	1	1	1	1	1	1
60	タイヤ ビード 剥離器具	Tyre Bead Remover	1	1	1	1	.	.
61	タイヤ ビード 分断器具	Tyre Bead Breaker (Hard type)	1	1	1	1	1	.
62	トラック タイヤ 交換器具	Truck tyre Changer	1	1	1	1	1	.
63	油圧式 タイヤ 剥離用 器具	Hydraulic Tyre Removing Tool	1	1
64	車輪 平衡用器具	Wheel Balancer	1	1
65	手動式 ポンプ	Hand Operated Pump	1
66	シリンダー	Cylinder	1	1
67	引き抜き器具	Puller	1	1
68	マスターピン 脱着 器具	Master Pin Remover & Installer	1	1
69	スプロケット 脱着 器具	Sprocktt Remover & Installer	1	1
70	電気コード用 巻き取り器具	Electric Cord Reel	1	1	1	.	.	.
71	モーター引き抜き用 組器具	Motor Puller set	1	1	1	.	.	.
72	アマチュア(電機子)テスター	Armature Tester	1	1	1	.	.	.
73	直流式 電圧・電流・計器	D.C. Volt Ampere Meter	2	1	1	.	.	.
74	バッテリー 充電用電線	Battery Chaging Cables (set)	1	1	1	1	.	.
75	充電用 クリップ	Charging Clips	8	6	4	2	.	.
76	ブースター ケーブル	Booster Cable	2	2	2	2	.	.
77	バッテリー 溶液 メーター	Battery Hydrometer	1	1	1	1	.	.
78	水 浄化器具	Water Purifier (Deioniser)	1	1	1	.	.	.
79	シリコン クイックチャージ器具	Silicon Quick Charge Normal Charge	1	1	1	1	.	.
80	無ハンダ ターミナル プライヤー	Solderless Terminal Plier	2	2	2	.	.	.
81	無ハンダ ターミナル プライヤー	Solderless Terminal Plier	2	1	1	.	.	.
82	溶液 テスト用 組み器具	Hydraulic Test Gauge Set	2	1	1	.	.	.
83	ソケット レンチ 組み工具	Socket Wrench set	2	1	1	.	.	.
84	ソケット レンチ 組み工具	Socket Wrench set	2	1	1	1	.	.
85	ソケット レンチ 組み工具	Socket Wrench set	2	1	1	1	.	.
86	ソケット レンチ 組み工具	Socket Wrench set	2	1	1	1	.	.
87	ソケット レンチ 組み工具	Socket Wrench set	2	1	1	1	.	.
88	ベルト レンチ	Belt Wrench	2	1	1	1	.	.
89	チェーン レンチ	Chain Wrench	2	1	1	1	.	.
90	ネジ回し 組み工具	Driver Set

品目 Item			新格付け別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
No	種類	Description	A	B	C	D	E	F
91	機械工用の組み工具(大型車両用)	Mechanic Tool set for Large Vehicles	13	8	5	2	.	.
92	機械工用の組み工具(建設機械用)	Mechanic Tool set for Construc Equip	1	1	1	1	.	.
93	機械工用の組み工具(建設機械用)	Mechanic Tool set for Construc Equip	7	16	3	2	.	.
94	機械工用の組み工具(高級タイプ)	Delux type Mechanic Tool set	1	1	1	.	.	.
95	トルクレンチ	Torque Wrench	4	3	2	.	.	.
96	ベアリング 引き抜き用 組み器具	Bearing Puller set	2	2	1	1	.	.
97	盲ベアリング引き抜き用 組み器具	Blind Bearing Puller set	2	2	1	1	.	.
98	自在式ギア 引き抜き器具	Universal Gear Puller	1	1	1	1	.	.
99	ベアリングギア 引き抜き器具	Bearing & Gear Puller set (cons/mach)	4	3	2	.	.	.
100	ブッシュ 抜き用 組み器具	Bushing Inserter & Remover set	3	2
101	調整式 穴開(リーマ) 組み器具	Adjustable Reamer set	4	2	1	1	.	.
102	メスネジ用の穴開け レンチ	Tap and Reamer Wrench	4	3	2	1	.	.
103	オスネジ用のハンドル式 工具	Die Handle	4	3	2	1	.	.
104	スジネジ 復元用 器具	Thread Restorer	3	2	1	1	.	.
105	技術者用の とじ込み機	Engineers File	5	5	5	5	.	.
106	切削用 ブレード	Scraper Blade	6	4	2	.	.	.
107	工具板	Tool Board	1	1	1	.	.	.
108	チューブ用 切断 管端拡大 器具	Tube Cutting & Flaring Tool	1	1	1	.	.	.
109	パイプ 折り曲げ 器具 (手動)	Pipe Bender (Manual)	1	1	1	.	.	.
110	パイプ用 万力 器具	Pipe Vise	1	1	1	.	.	.
111	パイプ ネジ山付け器具 (手動)	Pipe Threader (Manual)	1	1	1	.	.	.
112	直線軸用 ラセン状ドリル(組み)	Straight Shank Twist Drill set	1	1	1	1	.	.
113	移動式 グラインダー	Portable Grinder	4	2	1	.	.	.
114	円盤式グラインダー (砂板円盤)	Disc Grinder (Disc sander)	4	2	1	.	.	.
115	追加 アクセサリー	Optional Accessories	1	1	1	.	.	.
116	台上 電動式グラインダー	Bench Electric Grinder	3	2	1	1	.	.
117	ハンマー式ドリルと打撃式ドリル	Hammer Drill & Impact Drill	1	1	1	1	.	.
118	金属切欠クラック染付検査 用具	Dye Penetrant Metal Crack Dete	2	2	1	.	.	.
119	バーニア 径測定 器具	Vernier Caliper	3	1	1	1	.	.
120	デジタル式 径測定 器具	Digimatic Caliper	1	1	1	.	.	.
121	深さ計測器具	Depth Gauge	1	1	1	.	.	.
122	外径計測 マイクロメーター	Outside Micrometer	2	1	1	.	.	.
123	外径計測 マイクロメーターセット	Outside Micrometer set	2	1	1	.	.	.
124	径 測定計	Caliper Gauge	4	2	1	.	.	.
125	目盛り盤式 計測器	Dial Indicator	1	1	1	.	.	.
126	磁力 台	Magnetic Base	1	1	1	.	.	.
127	標準 厚さ 計測器具	Standard Thickness Gauge	1	1	1	.	.	.
128	螺旋状ネジドリル 計測器具	Twist Grill Gauge	1	1	1	1	.	.
129	センター 計測器具	Center Gauge	1	1	1	.	.	.
130	螺旋式 ギア歯 計測器具	Involute Gear Tooth Gauge	1	1
131	スクリーン 間隔 計測器具	Screw Pitch Gauge	1	1	1	.	.	.
132	回転速度 計測器具	Tachometer	1	1
133	平滑台板 (鋳造製)	Surface Plate (Cast Iron)	1	1	1	.	.	.
134	直線 縁 器具	Straight Edge	1	1	1	.	.	.
135	金属製 台上 水準器	Iron Bench Level	1	1	1	.	.	.
136	V 型 ブロック	" V " Block	6	4	2	1	.	.
137	平面 計測器具	Surface Gauge	1	1	1	1	.	.
138	組合せ式 四角形 器具 (組)	Combination Square set	1	1	1	.	.	.
139	固定式 ジョイント 径 計測器具	Firm Joint Caliper	1	1	1	.	.	.
140	電動 チェーン式 吊上げ器具	Electric Chain Block	2	1

品目		Item	新格付け別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
No	種類	Description	A	B	C	D	E	F
141	チェーン式吊り上機 (手動式)	Chain Block	2	1	1	.	.	.
142	ポリスター 吊り上げ器具	Polyster Sling	4	2	1	.	.	.
143	ナイロン製 ロープ	Nylon String	4	2	1	.	.	.
144	手動式 運搬機器	Hand Truck	4	2	1	.	.	.
145	パレット 荷台 移動機器	Pallet Truck	3	2	1	.	.	.
146	空気 吹き付け ガン	Air Blow Gun	3	2	1	.	.	.
147	エンジン 清掃用 ガン	Engine Cleaning Gun	3	2	1	.	.	.
148	水ホース 巻き取り器具	Water Hose Reel	2	1	1	.	.	.
149	クリーニング 平底容器	Cleaning Pan	6	4	2	1	.	.
150	熱湯水 高圧吹き付け 洗浄器具	Hot Water High Pressure Washer	1	1	1	.	.	.
151	スチーム 洗浄 器具	Stem Cleaner	1	1	1	.	.	.
152	ホース 巻き取り器具	Hose Reel	2	1	1	.	.	.
153	ドラム缶用のポンプ(200.L缶)	Drum Pump (for 200 Litre Drum)	1	1	1	.	.	.
154	潤滑油 缶用のポンプ	Oil Bucket Pump	1	1	1	.	.	.
155	容量計 付きポンプ (グリース等)	Volume Pump (Grease & Oil)	1	1	1	.	.	.
156	グリース 注入用 ガン	Grease Gun	4	3	2	1	1	1
157	潤滑油 排出 器具	Oil Drain	1	1	1	1	.	.
158	燃料 供給 ポンプ	Fuel Supply Pump	1	1	1	.	.	.
159	ドラム缶用 ポンプ (回転型)	Drum Pump (Revolutionary Type)	1	1	1	1	1	.
160	ドラム缶用 栓	Drum Tap	2	1	1	1	1	.
161	ドラム缶 開栓 スパナー	Drum Opening Spanner	2	1	1	1	1	.
162	潤滑油 計量 器具	Oil Measure	4	2	1	1	1	.
163	ジョウゴ	Funnel	4	3	3	1	1	1
164	給油 器具	Oiler	4	3	2	1	1	1
165	オイル フィルター用 レンチ	Oil Filter Wrench	4	3	2	1	1	1
166	オイル 品質別 分類 器具	Oil Quality Analyzer	1	1	1	.	.	.
167	噴霧式スプレー ガン	Spray Gun	3	2	1	.	.	.
168	電気アーク式 溶接機	Arc Welder	2	1	1	1	.	.
169	溶接者 保護用 盾具	Welding Shield	2	2	2	2	.	.
170	溶接棒 安全 保持 器具	Safety Holder	2	2	2	2	.	.
171	アース クリップ	Earth Clip	2	2	2	2	.	.
172	粉砕用 両端式 ハンマー	Double End Chipping Hammer	2	2	2	1	.	.
173	皮製 手袋	Leather Gloves	4	2	2	2	.	.
174	完全な 溶接と切断 用品	Complete Welding and Cutting Outfit	2	1	1	1	.	.
175	溶接と切断 用品	Welding and Cutting Outfit	2	1	1	1	.	.
176	ガス 溶接 組み器具	Gas Welder set	2	1	1	1	.	.
177	発火 器具	Igniter	2	1	1	1	.	.
178	シリンダー 運搬器具	Cylinder Carrier	2	1	1	1	.	.
179	車体 金属フェンダー 組み工具	Body Fender Tool set	1	1	1	.	.	.
180	車体フレーム 調整式 切断ノコギリ	Adjustable Hacksaw Frame	4	3	3	1	.	.
181	手持ち式 リバット 器具一式	Hand Riveter Kit	2	1	1	1	1	.
182	火吹き付け(トーチ) ランプ	Torch Lamp	2	1	1	1	1	.
183	ハンダ コテ (銅鉄製)	Solder Iron	2	2	1	1	1	.
184	電気 ハンダ コテ (銅鉄製)	Electric Solder Iron	2	2	1	1	1	.
185	鉄製製 カナ床	Iron Anvil	2	1	1	.	.	.
186	火熱物用 挟み火バシ	Tongs Firing	2	1	1	.	.	.
187	ブリキ板 曲げ プライヤー	Tinners Pliers	2	2	2	.	.	.
188	両面 式 大鍵 ハンマー	Double Face Sledge Hammer	2	2	2	.	.	.
189	ヒビ割れ 補修用 器具一式	Crack Repair Kit	1	1	1	.	.	.
190	修繕用 合成樹脂 接着剤 工具	Repatring Epoxy Compound	4	4	2	.	.	.

品目		Item	新船付別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
No	種類	Description	A	B	C	D	E	F
191	油圧式 プレス 機器	Hydraulic Press	1	1	1	.	.	.
192	自在式 ドリル 機器	Universal Drilling Machine	1	1	1	.	.	.
193	移動式 発電機	Portable Generator	1	1	1	.	.	.
194	空気 圧縮機	Air Compressor	1	1	1	1	.	.
195	コンテナ型 ワークショップ	Container type Workshop	1
196	吊り金具 囲み 装置	Part Box Hanger	1	1	1	.	.	.
197	可搬式 溶接機 溶接 器具	Portable Spot Welder	1	1	1	.	.	.
198	可搬式 重ドリル 機器	Portable Heavy Drilling Machine	3	2	1	.	.	.
199	バッテリー 缶	Battery Caddy	1	1	1	.	.	.
200	バッテリー テスター 器具	Battery Tester	1	1	1	.	.	.
201	切り目 ノコギリ 機器	Hack Sawing Machine	1	1
202	台上(ベンチ)用 センター機	Bench Lathe	1
203	センタードリル 開口兼用型	Center Drill Counter Sink Comb.	6
204	旋盤 センター用 器具	Lathe Center	2
205	積繰り回転用 センター 器具	Rolling Center	2
206	運転作業 カギ式つかみ機	Work Driving Dog	2
207	3-アブ式 伝導伝導型チャック	3-Jaws Geared Scroll Chuck	2
208	手回し式ドリル用 器具	Tool Bits	1
209	ロータリー式 アングル 研摩機	Rotary Angle Grinder	2	2
210	リベット 鍛冶 器具	Rivet Forge	1	1
211	コンテナと容器 (噴霧器 ガン)	Container & Cup for Spray Gun	2	2
212	機械式万力 (固定式 と 回転式)	Machine Vices (Stationary & Swivel)	4	2
213	バルブ 面 研摩 器具	Valve Refacer	1	1
214	点火プラグ 浄化 兼用 テスター	Spark Plug Cleaner & Taster	1	1
215	ディーゼル圧縮機 計測器具	Adapters for Diesel Compression	1	1	1	.	.	.
216	ターボチャージ用 複合ゲージ	Compound Gauge for Turbo Charge	1	1	1	.	.	.
217	排気ガス 分析 計器	Exhaust Gas Analyzer	1	1	1	.	.	.
218	点火プラグ 間隙 ゲージ	Spark-Plug Gap Gauge	4	3	3	1	.	.
219	点火プラグ調整とバッテリーテスター	Sparkplug Condition & Battery tester	1	1	1	.	.	.
220	スチール コンパス	Steel Compass	1	1	1	.	.	.
221	自動電気用 工具セット	Auto-Electric Tool set	4	2	2	1	.	.
222	電気機械用 工具セット	Electronic Mechanic Tool set	1	1	1	1	.	.
223	板金 叩き出し用 工具セット	Panel Beater Tool set	1	1	1	.	.	.
224	燃料 供給 機械工員 工具セット	Fuel Injection Mechanic Tool set	1	1	1	.	.	.
225	エンジン式 旋盤 機器	Engine Lathe SU-0105	2	1
226	安全 タイヤ かご	Safety Cage tyres	1	1	1	1	.	.
227	ブレーキ テスター	Brake Tester BK-1307	1
228	高架移動式 クレーン 3t品	Mobil Gantry Crane 3.T. NF-0701	1	1	1	.	.	.
229	高架式 クランク型(電動クレーン)	Gantry Crank 10.T. NF-0217 (Electri)	0
230	車輪式 フリー巻き器 器具	Wheel free Hoist 15.T. BS-0211	1
231	感触式 ゲージ	Feeler Gauge 3 1/4x1/2 0.007	1	1	1	1	.	.
232	木材製 作業台	Benches Wood Working	4	2	1	1	.	.
233	ベンチ用 万力	Benche Vices	4	2	1	1	.	.
234	スタンリー製 4フット 締め金具	Clamps 4 ft Stanley	4	2	1	2	.	.
235	スタンリー製 5フット 締め金具	Clamps 5 ft Stanley	4	2	1	2	.	.
236	スタンリー製 6フット 締め金具	Clamps 6 ft Stanley	4	2	1	2	.	.
237	G 型 クランプ	G Clamps	4	4	4	1	.	.
238	平面削り カンナ 器具	Plane No. 5	4	1	1	1	.	.
239	すき形 と カンナ 兼用器具	Combination Plough & Plane 10	1	1	1	1	.	.
240	スポーク削り 調整 切断 器具	Spoke Shaves Adjustable cutter	4	1	1	1	.	.

品 目 Item			新格付け別ワークショップの工具数量 W/S Category Tools & Qty.					
No	種 類	Description	A	B	C	D	E	F
241	ノミ 入れ袋	Chisel Wallet	10	8	1	1	.	.
242	手持ち式 ドリル 2 段速度	Hand Drill 2 speed	1	1	1	.	.	.
243	自 押し当て式 ドリル	Breast Drill	.	.	.	1	.	.
244	イーグル製 手持ち のこぎり	Eagle Hand Saw	40	1	1	1	.	.
245	水準 器具	Level	4	1	1	1	.	.
246	木工用 回転盤式 ノミ器具	Wood turning chisel	4	1	1	1	.	.
247	コンビネーション式 6工程 平滑機	Combination Planer 6 Operation	1
248	木工作業用 旋盤 器具	Lathe Wood Working	1	1
249	バンド形 のこぎり 装置	Band Saw	1	1	1	1	.	.
250	円盤形 のこぎり 装置	Circular Saw
251	厚型 と 付属品	Planner Thicknesser with attachment	.	1	1	.	.	.
252	工具 一式 内容 24種 組み	Tool kit Contents 24 pcs	4	2	1	1	.	.
253	シンガー製 ミシン 191D型	Singer Sewing Machines 191-D-300	1	1	1	1	.	.
254	シンガー製 ミシン 188U型	Singer Sewing Machines 188-U	4	2

2. 平成3年9月27日・世銀ナイロビ事務所 (11時40分～12時30分)

(1) 会談協議出席者

世界銀行 : Mr. CHRIS. E. M. KEIL (上級森林専門家)
世界銀行 : Mr. Gajan Pathmana Than (東アフリカ・ミッション員)
日本大使館 : 有安1等書記官
JICA : 高畑次長・境・内野・メニア女史、岡・松本・北村隊員
調査団 : 中村団長、新井・西川・小林・西山

(2) 協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府の要請で、国立公園26ヶ所の中の6ヶ所を対象に、機材を供与する無償援助の可能性を見極めるために来た。
- * 日本は、世銀の総合調整(Coordinate)を高く評価し、野生生物保護計画に積極的に参加する意思がある。当調査団の目的は、ケニア国側から出された要請の必要性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うものである。
- * 要請機材の配備と使用に当っては、適切な機材の維持管理および運営指導等が必要で、これに協力する専門家派遣も重要である。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・要旨説明)
- * 今回の当調査団による事前調査結果により、改めて具体化するために基本設計(B/D)調査団が来年早々再び来るであろう。その後、国内解析の後、案件の妥当性があれば、至近の閣議で援助決定される事になる。
- * 我々調査団の調査日程は、提示資料の通りであるが、在ケニア中に再度、世銀側と面談したい。

② 世銀側から

- * 当方の事務所長サダト アメット (Sadat Ahmed) は、ワシントン出張中である。近日中に、所長は最新説明(Update Version)資料を持って帰るので、それを参考にして欲しい。……………(注記・1991年10月1日版の別添世銀資料)
- * 野生生物保護計画の全体額は1億4000万ドルで、10%はKWSが賄ない、残り90%=1億2600万ドルのうち世銀が6000万ドル、残り6600万ドルは、各ドナーの分担に拠ることが予定されている。(注:金額次頁参照)日本も適正な分担を履行するよう、その金額を早く提示して欲しい。

【世銀談に関する、調査団の注記】

- ① 下記の、1991年6月3日版・世銀資料によれば、今後5ヶ年間の第1期計画予算額は US\$ 147 Million (1億4700万ドル)で、その90%が各ドナーの出資に期待されている。

Kenya, Wildlife and Protected Areas Management Project,
Appraisal Mission. Draft Aide Memoire. 3. Jun 1991.

- ② 同年7月1日と24日に世銀ナイロビ事務所サダト所長の発表によれば、

ドナー国		7月1日談	7月24日談	期待されている分担内容
英国	ODA	15. M	22. M	新組織の制度化、管理運営の訓練と教育
欧州	EEC	8. M	8. M	ゾウ保護計画と関連するフェンス設置計画
ドイツ	KFW	10. M	8. M	基礎施設整備のうち、機材を除く、各部門
米国	USAID	7. M	8. M	野生生物・地域住民との共同計画
オランダ	DUTCH	10. M	8. M	湿地と海洋の保護管理計画、現職員の訓練教育
イタリア	ITALY	(未提示)	2.5 M	(未提示)
日本	JAPAN	(未提示)	(未提示)	基礎施設整備のうち、車両・建機・等の機材
中間計		50. M	56.5 M	

- * 今般の調査で、日本側援助の種類 (Nature)、範囲 (Scope)、総額 (Amount) を示して欲しい。

- * 他の援助国側の動向としては、

米国 USAID : 協定準備は出来ているが、観光野生生物省当時の人員整理 (1600-1700人) 勧告を KWS が終わる迄、保留となっていたが、近々 この問題は解決する状況にある。

英国 ODA : まだサインはしていないが、10~11月中には融資 (Credit) の話し合いを行う予定である。12月には、関係部局 (Board) との会議を開き、来年1月からプロジェクトを開始させたい。

- * アンボセリ国立公園とアバデラ (Aberdare) 国立公園に対するドナー国の支援計画は完了している。

- * 日本調査団の現地視察後、再び面談する機会をお待ちしている。

3. 平成3年9月27日・ケニア野生生物公社（KWS）本部事務所（14時30分～15時40分）

(1) 会談協議出席者

KWS : リーキー総裁,
KWS本部 : ムイラリア特別顧問, キフリア機械通信課長, カマウ道路金網課長
日本大使館 : 有安1等書記官
JICA : 高畑次長, 境, 内野, メニア女史, 岡・松本・北村隊員
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山

(2) 協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象としたインフラ整備関連の機材供与等に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来た。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うものである。
- * 要請機材の配備と使用に当っては、適切な機材の維持管理、運営指導等が必要で、これにも協力する予定である。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。（パンフレットを提供・内容説明）
- * 今回の当調査団による事前調査結果により、さらに具体化するために基本設計（B/D）調査団が来年早々再び来るであろう。その後は、国内解析の後、案件の妥当性があれば、至近の閣議で援助決定される事になる。
- * 我々調査団の調査日程は、提示資料の通りであるが、現地視察調査後には再度KWS側と会談したい。

② KWS総裁から

- * ケニア国として、観光産業は重要な地位を占めている。そのため野生生物保護の全般業務は、政府からKWSに移管され、一元的にKWSが管轄している。
- * ケニア国には、石油や鉱物資源が無いので、外貨収入として、以前は、農業が第一位であった、そのため政府は観光部門には余力を入れなかった。しかし、現在では観光収入が第一位を占め、逆転している。

- * 今般の野生生物保護計画は、そのための総合計画で将来にわたる長期計画でもある。生態環境や社会環境等に留意して、国家経済に寄与する潜在的な可能性(Potential)をも高めて行きたい。
- * これには、適正な機材配備が必要であり、熟練した技術スタッフと、各々の専門職員の育成訓練も必要である。
- * 私は、この新計画を正しい方策と考え、実行するための努力を行っており、各援助国等からの支援は、1994/95年頃迄とし、以後は自立したいと考えて、その体制強化を図っている。
- * 野生生物保護計画のうち、ナイロビの教育訓練センター(Education Center)は、世銀の援助で実施することが決まっている。このソフト面について、世銀や教育担当省と、内容等の詳細を話し合っている処である。
- * 日本は、野生生物保護全体計画の中で、教育訓練の分野に対する機材援助等もして欲しい。
- * 日本調査団の現地視察後に、再び面談する機会をお待ちしている。

(1) 会談協議出席者

MTW省 : ジョージ ミーティン (Mr. George Mitine) 財務官
JICA : 境, 内野, メニア女史, 岡・松本・北村隊員
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山

(2) 協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象に、インフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来た。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うものである。
- * 要請機材の配備と使用に当っては、適切な機材の維持管理、運営指導等が必要で、これにも協力する予定である。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・要旨説明)
- * 今回の当調査団による事前調査結果により、さらに具体化するために基本設計(B/D)調査団が来年早々再び来るであろう。その後は、国内解析の後、案件の妥当性があれば、至近の閣議で援助決定される事になる。
- * 我々調査団の調査日程は、提示資料の通りである。明日から各現地を視察調査する。

② ジョージ ミーティン財務官から

- * JICA派遣の事前調査団の来訪を歓迎する。
- * 今般、最終的には総額300.Million・ドル(3億ドル)に及ぶ野生生物保護計画に関し、世銀等とともに日本からも相応の援助をお願い出来ることは喜ばしい。
- * ケニア国立公園の援助に必要な優先順位は、アンボセリ、メルー、ツァボ等で何処の国からも手が延べられて無い。日本の援助を受け入れるキャパシティは充分に有るので、御支援を希望する。

5. 平成3年9月28日・東ツァボ国立公園事務所

(1) 会談協議出席者 (会談・10時20分～11時20分)

国立公園 : ギチャンギ公園長, (Warden, Mr. S.M.Gichangi)
国立公園 : ダニエル・ウッドリイ道路主任 (Mr. Daniel Woodley)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, 内野・各所員, 岡・松本・北村・3隊員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象としたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪した。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので、東ツァボ国立公園の現状を視察させていただき度い。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・要旨説明)

② ギチャンギ公園長から

- * 当公園は、面積1万1747平方kmで、ケニア国内の国立公園の中では最大の広さである。以前は象の数も多かったが、密猟等のために、現存する象の数は約4000頭、1984年の早魃では5000頭の象が死んだ。サイはこの5年ほどの間に、密猟のため、殆ど絶滅に近い数に急減している。
- * 年間の観光客数は12万7000人を超えている。各ゲートで徴収する入園料金は、全てKWS本部に送金し、本部から必要額が再配分される。
- * 公園地域内のほぼ中央を、西北境域から東中央境域に向けて東流するガラナ河 (Galana River) によって、当公園は北地域と南地域とのに大別される。現在の観光道路は、南地域に多く、北地域は道路や必要施設等の開発が遅れている。
- * 密猟防止の巡回車両等は、旧式のランドローバー等を含む合計8台で、台数が少ないため、レンジャー隊員は広域の巡察活動に馬も用いている。
- * 北部地域の密猟防止に巡察するレンジャー隊は、自動車でも1回巡回するのに10～14日を必要とし、現場キャンプでは食糧に不足する事もある。

5. 平成3年9月28日・東ツァボ国立公園事務所（続き）

- * 従って、特に北部地域では、密猟侵入者（Poaching）から野生動物を保護するため、新規の道路建設や、既存道路の補修改良は、必要不可欠であって、この道路整備は、急を要する仕事である。
- * 当公園の道路は、砂利道路100km、土道路1690km、計1790kmで、その多くは1948年頃に作設された。補修用の機械は英国陸軍からの払い下げ機械を導入使用していたが、これらの多くは10～18年前の旧式機械で故障も多く、今では殆どが廃機置場に残骸としてあるのみである。
- * 現有機械は、モーターグレーダ（CAT製12C型故障中）1台、ブルドーザ（小松D50型）1台、ドーザショベル（CAT製941型故障中）1台だけであり、何れも旧型機である、後ほど案内するので見て欲しい。
- * 道路の補修は、雨季の最中に行うが、約1800kmの道路をカバーするにはグレーダ不足で、道路が補修出来ず困っている。南地域の観光客の小型バスが走る道路でも、今年7月に1回、グレーディングしただけである。
- * 機械修理工場（W/S）は、公園事務所の構内に併設してあるが、補修工作用の器具が不足している。このW/Sは、国内8地域に予定する地域W/Sの一つになる。有資格メカニックは3人おり、補助メカニックも7人いる。予備部品の出納管理は、カード方式で適正に行っている。
- * 公園内に飛行場は18ヶ所あるが、もう6ヶ所増やしたい。
- * 当公園の教育訓練センターは、周辺住民の動物保護教育も行い、30名の宿泊棟もある。これには米国USAIDの支援を得ている。

(3) ギチャンギ公園長の案内で、東ツァボ国立公園内の各施設を視察調査 （現地の巡回視察は、11時20分～16時10分迄、約5時間）

- ① 東ツァボ国立公園事務所の機械修理工場（部品倉庫と廃棄機材置場等を含む）
- ② 同公園の南地域の道路・橋梁・暗渠・貯水池・飛行場・公園出入ゲート等の状況
- ③ 同公園の教育訓練センター建物施設
- ④ 同公園の象・サイ・その他の骨保存倉庫
- ⑤ 同公園内の観光客宿泊食事用の施設等（Voi Safari Lodge. と Aruba Lodge）

(4) 東ツァボ国立公園を視察後は、国道A1-9号線を120km西北に走って、 ムティト アンディ（Mtito Andei）村落のツァボ インに宿泊した。

6. 平成3年9月29日・西ツァボ国立公園事務所

(1) 会談協議出席者 (9時15分～10時00分)

国立公園 : シモン・オレ・マカラ公園長 (Senior Warden, Simon Ole Makallah)
国立公園 : ウイルフレッド・ンゴンヂ次席 (Deputy Warden, Wilfred Ngonze)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, 内野・所員, 岡・松本・北村・3隊員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象としたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪した。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので、西ツァボ国立公園の現状を視察させていただき度い。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・内容説明)

② シモン・オレ・マカラ公園長から

- * 当公園は、1948年に開設され、面積は9065平方kmである。地勢的には、草原の多い南部地域、草原と小灌木林の中央地域、山岳地の北部地域と云う3地域に大別出来るが、野生動物の分布状況は殆ど同じで、気象の状態もほぼ同様である。
- * 年間の観光客数は、約8万4000人である。観光客の宿泊には1泊が多い。キラグニ・ロッジ (Kilagini Lodge) は、KWSが民間に委託経営させており、来訪宿泊客1人当たり30シリング (約150円) をKWSに納入する事になっている。
- * 公園内の道路は、主要道路 (Main Road : 約5m幅)、動物観察道路 (Game Viewing Road : 約4m幅)、防火帯道路 (Fire Breaking Road : 約3～6m幅) の3種類に区分される。
- * 主要道路は、砂利敷き道路であり、観光用バス等のすれ違い交通も出来る。
- * 観察道路は、出来る限り補修を行って安全通行を可能にし、観光車両が道路外の自然原野等を走らぬよう、注意している。
- * 乾燥季に発生する野火は、南部からくることが多い。防火帯道路は、そのための消火道路でもある。野火は出来るだけ早く消さなければならないが、それに必要な車両が不足しており、困っている。
- * 多くの管理用自動車は、1960年代のもので、すでに廃車したものが多い。現存の使用可能な車両は、何れも老朽車で、数も7台しかなく少ない。

6. 平成3年9月29日・西ツァボ国立公園事務所（続き）

* 当公園の道路は、全長1644kmで、その内訳（km）は次の通りである。

区分	主要道路	観察道路	防火道路	合計
北部地域	170	358	207	735
中部地域	36	345	180	561
南部地域	0	181	167	348
総計	206	884	554	1644

- * 現有建設機械は、旧式なモーターグレーダ×2台だけで、道路の補修維持には不足している。昔は4台あり、これで十分な仕事をしていた。ブルドーザも昔は2台あったが、今は老朽化して皆使用不能になっている。
- * 農用4輪式トラクタは使用する予定がない。運搬移動用のトレーラ等は小型のピックアップ型自動車牽引している。
- * 車両および建設機械は、多種多様では困る。維持管理や修理部品の面等から考えてブランドを統一して導入したい。また販売代理店が、ナイロビ等に存在するメーカー機種にしたい。そして機械の取扱をトレーニングして貰う事も必要である。
- * 機械修理工場（W/S）は、公園事務所の構内に併設してあるが、補修工作用機器具が不足しており、ディーゼル発電機も少ないので仕事に不自由している。自動車類の修理工員は11人いるが、建設機械のメカニックはいない。
- * KWSに移管後は、職員が80人減って、現在は約180人になっている。
- * サイは、現在14頭に増えている。大切に保護して、増殖を図っている。
- * 無線通信機は、世銀から供与されている。短波用HFはナイロビ本部との交信に用い、極超短波のUHFは公園内での各地点と、連絡用に使っている。電源用の電気は無いので、太陽光発電機を使用している。

(3) S.O.マカラ公園長の案内で、西ツァボ国立公園内の各施設を視察調査（現地の巡回視察は、10時00分～15時00分迄、約5時間）

- ① 西ツァボ国立公園事務所の機械修理工場（部品倉庫と廃棄機材置場等を含む）
- ② 同公園事務所内の密猟防止用の小銃と弾薬庫、無線電話室
- ③ 同公園の北部と中部地域の道路・橋梁・暗渠・地下水用水ポンプ施設等
- ④ 同公園内のサイ増殖施設と電柵、太陽電池の無線装置小屋
- ⑤ 同公園内のムジマ湧水池と水中観覧小屋、モンバサ給水用の水槽施設
- ⑥ 同公園内の火山活動跡の溶岩地帯、飛行場施設
- ⑦ 同公園内の観光客宿泊食事用の施設（Kilaguni Lodge）

(4) 西ツァボ国立公園を視察後は、同公園内の専用飛行場から、KWS航空機2台で、15時出発、15時40分アンボセリ飛行場に着、アンボセリロッジに宿泊した。

7. 平成3年9月30日・アンボセリ国立公園事務所

(1) 会談協議出席者

国立公園 : ナフタリ・M・キオ公園長 (Warden, Mr, Naftali M Kio)
国立公園 : マクネル キプクゥ次席 (Deputy Warden, Mr, Mcnei Kipkeu)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, 内野・所員, 岡, 松本, 北村・3隊員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象にしたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪した。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので、アンボセリ国立公園の現状を視察させていただき度い。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・内容説明)

② ナフタリ・M・キオ公園長から

- * 当公園は、1974年11月に開設され、面積は392平方kmである。地勢的には、全般的に浅い平面凹地状の湖沼底平原で、西央部分には湛水する湖沼があり、雨季には水面積が拡大する。
- * 年間の観光客数は、1980年代の約15万人から、1990年には急増して約27万人に達している。これは首都ナイロビから240kmの近距離に位置して、自動車と小型航空機の陸空交通が便利な事と、観光客の宿泊施設が整備されている事、それに南側の直前にキリマンジャロ高峰が眺望出来る等の良い環境に原因する。
- * 公園内の道路は、主要道路(Main Road)48km、観察道路(Game Viewing Road)117km、公園に接近する連絡用道路(Service Road)100kmの3種類に区分される。
- * 主要道路は、砂利敷き道路で、道路の改善工事は機械が無いので、8km分は民間業者に委託中である。残り40kmは、日本からの供与機械を待って行う予定である。
- * 観察道路は、出来る限り補修を行って、観察客の車両が安全通行出来るようにするため、5年間に90kmの補修改良工事を行いたい。そのうちの45kmは民間の請負わせるが、残り45km分は日本の供与機械で実施する予定。
- * 連絡道路の100kmも、日本の供与機械の到着後に、実施する予定である。

7. 平成3年9月30日・アンボセリ国立公園事務所（続き）

- * 当公園の1991年度の道路補修改良工事の請負施工は、は次の通りである。
1月～9月、20km、施工完了
10月～12月、20km、今後予定
モーターグレーダがあれば、直営作業で、もっと多くの道路を補修したい。
- * 現有建設機械は、旧式なモーターグレーダ×1台（故障中）と、4トン積みのダンプトラック×1台だけである。
- * 道路のグレーディングは、毎年2回程度は実施しなければならないが、現在は2年に1回しかできず、悪路状態が続いており、観察客等に迷惑をかけている。またそのため観察用小型バス等の故障も多く、外国からの来訪客等より苦情が絶えない。
- * 野生動物保護巡視用自動車は、6台だけで、不足し業務に支障を起こしている
- * 機械修理工場（W/S）は、公園事務所の構内に併設してあるが、補修工作用の機器具が不足している。
自動車類の修理工員は3人、建設機械のメカニック1人、溶接工員1人がいる。
- * 象は500頭、サイは3頭おり、大切に保護している。

(3) ナフタリ、M、キオ公園長の案内で、アンボセリ国立公園内の各施設を視察調査
（現地の巡回視察は、8時00分～15時40分迄、約8時間）

- ① アンボセリ国立公園事務所の機械修理工場（部品倉庫と廃棄機材置場を含む）
- ② 同公園事務所構内の公園長官舎、野象の水飲み場施設、脱境フェンス柵等の施設
- ③ 同公園の北部地域外の砂利採取場と中央部湖沼湛水地の道路嵩上工事の施工状況
- ④ 同公園の北部地域外の送水管施設、中継加圧ポンプと水槽施設等
- ⑤ 同公園内の高さ約50mの旧火山丘頂（Observation Hill）の展望小屋施設
- ⑥ 同公園内の中央部の専用飛行場（Air Strip）、地下水の揚水ポンプ場
- ⑦ 同公園内の観光客宿泊食事用の施設（Amboseli Serena Lodge）

(4) アンボセリ国立公園を視察後は、同公園内の専用飛行場からKWS航空機2台で、15時50分出発、16時30分ナイロビのウイルソン飛行場に帰着、サファリパークホテルに宿泊した。

8. 平成3年10月1日・ナクール湖国立公園事務所

(1) 会談協議出席者

国立公園 : アルフレット・マヨリ・キセエ公園長 (Warden, Mr. Alfred Mayoli Kisee)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, メニア女史, の2所員, 岡, 松本, 北村・3隊員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象にしたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪した。
- * 日本は、野生生物保護計画を積極的に支援する意思がある。当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので、ナクール湖国立公園の現状を視察させていただき度い。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供・内容説明)

② アルフレット・マヨリ・キセエ公園長から

- * 当公園は、1983年1月に国立公園となり、総面積は188平方kmである。湖水面積は約40～60平方km。これは浅い平底湖水のため、水位の変化により水面積が変動するからで、通常水深は1.3m、最大水深は2.0m。水質はソーダ質で、流入河川はあるが、流出河川はない。
- * ソーダ質湖水に発生する藻を食餌するフラミンゴの生殖環境に適し、約300万羽のフラミンゴが、近隣の湖水を移動しているが、今日は約30万羽いる。湖水周囲の公園内には、サイ30頭、ライオン50頭等と、草食野獣類も多い。
- * 年間の観光客数は、約17万人(1990年)、首都ナイロビから160kmの近距離に位置し、高速自動車道路(A104号線)と鉄道等による交通が便利な事と、観光客の宿泊施設が整備されている事、有名な大地溝帯の谷底に位置している事、そしてフラミンゴ生息地である事などで、珍しい種の鳥と野生動物の種類が豊富である。
- * 公園内の道路は、舗装道路0.2km、砂利道路31km、土道路254km。合計285kmほどであるが、現有の旧式グレーダ1台が故障中のため、路面補修作業が遅れている。3ヶ月に1度の道路修理を行い、来訪客が普通の車で湖岸を巡回観察できる道路状態に維持したい。
- * 湖岸は火山灰性の土であるため、主要道路としては、砂利敷き道路が必要である。日本からの機材供与を得て、これを3年間で75km延長したい。山砂利(現地語: マラム)は公園内の3ヶ所で採取できる。

8. 平成3年10月1日・ナクール湖国立公園事務所（続き）

- * 当公園の現有可動車両は、4輪駆動のパトロール車3台とステーションワゴン型自動車1台で、いずれも昔、陸軍の払い下げ車や世銀からの供与車である。
 - * 簡易な車両修理は、当公園事務所に併設のW/Sで行うが、困難な車両修理はナイロビ市のKWS本部W/S、またはナクール市の民間修理工場に委託して行っている。
 - * 当公園に併設の機械修理工場（W/S）は、1200平方mである。近いうちに、KWS本部が予定している8地域（8-Regional）のW/Sの中の1ヶ所に昇格するので、それに伴い工場建屋等も新築建替を行う予定である。
 - * 公園の周辺に市街地等の住民居住地帯があるため、野生動物の脱境防止と保護のための境界フェンスや電柵が必要で、これらの修理と強化対策をしたい。
 - * 当公園に来訪する観察客は、鉄道列車で来る人数も多いので、来園者のバスが必要である。
 - * ナクール市街の汚水が、小さい2河川を通じて流入しており、これが湖水汚染の原因になっているが、経済的な理由によるその対策の遅れを憂慮している。また、市街地等からのゴミも湖水に流入するので、ゴミ収集用の小型ボートが欲しい。
 - * 公園内の動物管理用自動車としては、サイ30頭を更に増殖するために必要な特別保護区（Sanctuary）の常時巡回と密猟防止に、4輪駆動自動車が必要なので、供与して欲しい。
 - * 大地溝帯の底地帯と云う公園周辺の地形上、真水の流れる河川が少なく、湧水泉も無いので、特に乾季は野生動物の飲み水にも不自由している。そのために公園内に数ヶ所の井戸を掘って、飲用水の供給場所を新設したい。
 - * 公園事務所近くの湖水北西岸の山丘上に、新設された教育センター（Education Center）は、今年（1991）6月にオープンしたもので、建設費は民間援助団体（NGO）の援助、工事はKWSが行った。
- (3) アルフレット・マヨリ・キセエ公園長の案内で、ナクール湖国立公園内の各施設を視察調査
（現地での会談・巡回視察は、11時30分～15時40分迄、約4時間）
- ① ナクール湖国立公園事務所の機械修理工場（部品倉庫と廃棄機材置場を含む）
 - ② 同公園事務所の公園長室、無線電話棟、車両燃料給油施設
 - ③ 同公園の北西山丘上の教育センター（教室と講堂棟、宿泊棟等）施設
 - ④ 同公園の第2機械置場（旧式機械車両と破損機械車両の廃棄残骸等）
 - ⑤ 同公園の湖水北岸に流入する市街からの汚水河川（2ヶ所）
 - ⑥ 同公園内の西側湖岸道路と西南側の山丘道路、暗渠、丘上眺望場等の施設
 - ⑦ 同公園の南岸から流入する真水小河川（Nderit River）と横断用砕石道
 - ⑧ 同公園外周囲の動物脱境防止用のフェンスと電柵の施設
 - ⑨ 同公園内の観光客宿泊食事用の施設（Lake Nakuru Lodge）
- (4) ナクール湖国立公園を視察後は、同公園から自動車でナイバシャ国立教育センターに向け、15時40分出発、16時40分ナイバシャに到着した。

9. 平成3年10月1日・ケニア国立ナイバシャ野生生物・水産漁業・教育訓練・専門学校

(1) 会談協議出席者 (16時40分～17時20分)

専門学校 : F. U. パーテット専門学校校長 (Principal, Mr. F.U.Pertet)
専門学校 : ジョセフ・K・ワルター監視官 (Warden, Mr. Joseph k Waruter)
専門学校 : ジョージンディゲ教官 (Instructor, Mr. George Ndiege)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, メニア女史の2所員, 岡・松本・北村の3隊員

(2) 協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象にしたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるため、ケニアに来訪した。本日はナクール湖国立公園を視察した帰途であるが、国立ナイバシャ訓練専門学校の施設状況等を視察させていただき度い。

② F. U. パーテット訓練専門学校・校長から

- * 当専門学校は、観光・野生生物省の管轄下であり、340万ドルの世銀の資金で設立された。
- * 現在は、ケニア国内の高校卒業生を選抜し、毎年1月から6月迄と、7月から12月迄の2期に分けて入校させ、教育期間の2年間は全寮制で、観光・野生生物省関係の公務員や関連分野等の専門職に必要な教育訓練を行っている。
- * 教育コースは、野生生物 (Wildlife) と、水産漁業 (Fishery) の2学科があり、野生生物学科の卒業生は野生動物保護官 (Ranger) に、水産漁業学科の卒業生は政府関係の水産技官に、それぞれ就職する。
- * この実務的コース (Practical Course) は、短期大学相当であるため、将来的には学位取得コース (Diploma Course) に格上げしたいと考えている。
- * 現在の専門学校職員は70人おり、そのうち観光・野生生物系の教官は21人、水産漁業系の教官は19人である。
- * 在校生は、現在175人だが、近い将来には、受験人数500人の中から選抜して300人を入校させ、レンジャー要員等200人、オフィサーを100人ほど養成したい。
- * 将来的には、一般にも開放し、近隣の諸国からも受け入れて、各国の要員等も養成したい。類似のタンザニア国の訓練所等と重複する教育内容ではない。

(3) パーテット訓練所長の案内で、ナイバシャ教育訓練専門学校の各施設を視察 (校内の巡回視察は、17時20分～18時00分迄、約40分間)

- ① 教室、階段式大講義室、各実験研究室、食堂と炊事調理室、寄宿舎等の各棟
- ② 実習用機械置場棟、機械修理工場棟、各種スポーツ場、その他の付属施設棟

(4) ナイバシャ専門学校を視察後、18時00分出発、ナイロビに19時45分帰着。

10. 平成3年10月2日・JICAケニア事務所

(1) 会談協議出席者 (8時45分～9時45分)

JICA : 高畑次長, 境, 所員, 岡, 松本・北村の3隊員
調査団 : 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山

(2) 協議の要点

① 中村団長から

- * 昨日までに、KWS公社本部と関係機関、および国立公園6ヶ所のうち、予定通り4ヶ所の国立公園を巡回視察した結果についての見解は次の通りである。
- * 9月27日に受理したKWS本部からの9月24日付け要請文書と付属の機材リスト(6公園分)に記載の機材量については、各公園の現状と、機材の使用管理面、および今後の人員配置数、などに不鮮明な部分もあるので、5ヶ年分に相当する多量の機材を最初から供与する事は無理である。
- * 東京の外務省および環境庁は、本案件を生態環境改善の長期的なものと考えている事でもあり、その中の1部としての機材計画にしては、規模も負担も過大である。
- * 他ドナーの援助動向も不透明な様子であり、当面は、要請機材の内容を3年分くらいのものに限り、その内容を調査して、再度調整する事に致したい。そのためには、対象の公園を3公園にしぼり、その要請機材は更に前期・後期等の2～3段階(Phase)に分ける事も必要である。
- * 本調査団の今後の活動は、KWS側と良く話し合っ、この計画を更に具体的に調査したい。本団とKWSとの覚書(Minute)については、機材に関する内容は抽象的な表現に留め、後半の補足調査によって、先方と機材の仕様内容等を詰め、最終的には、KWSからの要請機材リストを受け取る形にしたい。

② JICAケニア事務所側から

- * ナイロビのKWS本部構内に予定されている機械修理工場(Workshop: W/S)の建物について、日本側が関与する必要性があるかどうか、見極めて欲しい。
- * 日本側の協力対象公園としては、協力隊員が常駐している『東ツァボ、西ツァボ、及びナイロビ』の3国立公園を希望する。

10. 平成3年10月2日・JICAケニア事務所（続き）

③ 調査団とJICAケニア事務所との合意事項

- * 本案件の要請書としては、平成元年度に提出のあった『ゾウ／サイ増加計画』があるのみで、その後の経過によって、『野生生物保護計画』に変化し、この新しい計画の要請書は出されていない。
- * したがって、6公園の新計画に関する機材計画を、ナイロビ、西ツァボ、東ツァボの3国立公園にしぼって、ケニア側に第1段階（1～3年目）と第2段階（4～5年目）等に分けるよう伝えて、この各段階別の機材内容等を精査し、新たな要請書とともに、その機材リストを添えて提出させる。
- * 覚書の内容は、対象を3公園とし、そこで使用するための、道路整備用の機材、野生動物保護用と管理用の機材、W/S内の機材に限定し、抽象的な表現文に留める。
- * このように、当面は機材の供与で係わり、ソフト面等は、日本側の方針如何にもよるので、調査団は、ケニア側に、将来に向けては車両や建機等の機材のみではなく、例えば、教育センター（Educational Center）等の分野にも関心がある事も口頭で示唆する。
- * 今後は、他のドナーの動向等にも調査を続けて、段階的に対処する事が必要である。

11. 平成3年10月2日・ケニア野生生物公社(KWS)本部事務所

(1) 会談協議出席者 (10時00分～11時50分, ※印は、主な会談者)

KWS本部 : ※ キフリア機械通信材課長
KWS本部 : カマウ道路金網課長
KWS本部 : キヌスア生産開発課長補佐, カギリ財務調整課長
調査団 : ※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, メニア女史の2所員, 岡・松本・北村の3隊員

(2) 会談協議の要点

ケ側 : 日本は、6ヶ所の国立公園全部を対象にして、要請機材の全てを供与してくれるのか。

日側 : 協力対象公園は協力隊員の常駐するナイロビ、西ツァボ、東ツァボの3国立公園を対象にしたい。機材については、その内容等について補足調査、および帰国後の国内解析等で検討した結果により判断したい。

ケ側 : この野生生物保護計画は、8年間で3億ドルのプログラムが基礎になっており、その第1期の実施計画は、5ヶ年間で1億4700万ドル投資を予定し、これには、KWSが入園料等の収益で10%を当て、残り90%の半額6615万ドルを世銀が融資し、他の半額分6615万ドルは各国ドナーが拠出する資金計画になっており、既に各国ドナーの動向は、

英国ODAは、2200万ドルのうち、365万ドルを技術協力で、その残りは無線通信設備に予定している。この他にも今後は、車両、実験器具、事務所の設備品等、を供与の計画である。

米国USAIDは、全体で800万ドル、公園周辺住民福祉計画(Community Ware Fare Project)と名付けているが実施はこれからである。この計画には技術協力と機材の共同利用計画(Community Related Programme)が含まれ、普及用の車両供与と資金援助も予定されている。

ドイツのKFWは、800万ドル程度で、将来的に協力する案はあるが詳細はまだである。大使館に代表がいて、機材供与はアンタイドで、どのような遣い方をしてもよいと云う事になっている。

オランダDUTCHも、800万ドル程度を分担して、湿地帯(Wet Land)の開発を予定し、機材の仕様(Specification)等はこれから検討する予定である。

欧州EECも、800万ドルで、各公園周囲のフェンス作設プロジェクト等を予定している。

このような各国ドナーの分担額は、無税(Duty Free)の金額である。日本も分担額の履行について、速やかに提示金額を示して欲しい。

日側 : 日本の予算制度は、単年度制であり、審査の結果の必要額は、その都度決定する。

日側 : 5ヶ年間の機材計画を、最初の3年間分と、次の2年間分に、分けるような考え方をすることも必要である。

ケ側 : 機材計画では、第1年目に25%、第2年目に30%、第3年目に35%、第4年目には10%、とする4段階の導入を考えており、各公園事務所には最初に欲しい機材リストの提出を、既に指示してある。

11. 平成3年10月2日・ケニア野生生物公社(KWS)本部事務所(続き)

日側 : 機材供与後の修理機器具と修理工員が少ないようだが、これに関するKWS側の見解を聞きたい。

ケ側 : 機械修理工場(W/S)の設備機器具(Workshop Equipments)は、建物と必要な機器具のリストを既に作成してある。

W/Sの要員が少ない事は認める。KWSとしては、メカニックやオペレータ達の再訓練を行っている。

要請機材の供与後でも、国内に多くの適性要員がいるので雇用できるし、それらの給与も確保してある。また世銀の資金でメカニック等の雇用を行う事もできる。ナクール湖公園については、民間の委託工場も多くあるので修理等の心配はない。

日側 : 各公園事務所の構内には、修理未了の機械も多く見かけたが、これらの補修にはどう対処しているのか。

ケ側 : 現在、トラクター等は、米国USAIDの資金で補修中である。

KWSのW/Sで対処できない修理は、民間に委託している。

ケ側 : そのためにも、供与機材は、ケニア国内に代理店のあるものが望ましい。

ケ側 : 要請機材のうち、日本が供与できない機材については、他のドナーを捜すつもりでいる。

日側 : 既に、JICAケニア事務所から提出を求めている長期派遣専門家のA1フォームは、どうして遅れているのか、日本側のシステムを理解されたい。

ケ側 : A1フォームは、KWSの内部で検討中である。

日側 : 調査団が、KWS本部に頼んでいる質問表は、何日頃に貰えるか。

ケ側 : 現在その資料を取りまとめている最中である、出来上がり次第、お渡しする。

日側 : 3公園を対象にして、第1段階と第2段階等に分けた機材リストは、早急に作成して、渡して欲しい。

ケ側 : 各公園長の意見も聞いて、作成し、お渡しする。

会談後、キフリヤ課長の案内で全団員ナイロビ国立公園の各施設を視察調査
(11時50分から14時迄。約2時間)

- ① 機械修理工場(車両修理棟、エンジン修理棟、板金加工棟、塗装棟、部品倉庫棟等)
- ② 同工場構内の機材置場、将来の拡張用地等
- ③ ナイロビ国立公園内の道路・橋梁・暗渠・脱境防止柵、貯水池、展望台等の各施設

12. 平成3年10月2日・ケニア大蔵省の外資局長室

(1) 会談協議出席者 (16時00分～16時40分, ※印は、主な会談者)

大蔵省 : ※ オンガロ外資局長
大蔵省 : チボリ シャカバ外資局日本担当官
大蔵省 : ムサウ女史(外資局秘書)
調査団 : ※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, メニア女史の2所員, 岡, 松本, 北村の3隊員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府の要請で、主な国立公園6ヶ所を対象としたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の妥当性等を見極めるために来訪している。
- * 日本国政府は、野生生物保護計画を支援する意思があり、当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので既にKWSと協議を重ね、主な国立公園の視察調査も行った。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供説明)

② オンガロ外資局長から

- * 大蔵省としても、このプロジェクトは優先順位が高いので、重視しており、日本からの資金援助による機材供与を期待している。
- * この資金の流れは、世銀が調整(Coordinate)して、世銀から観光野生生物省を経て、KWS公社となる。
これは、資金返済の事を考慮して、直接KWSに金を与えないようにしたものである。
- * 日本の援助資金は、準備に時間はかかるが、実際の供与では、時間がかからぬ事は理解しており、現金の供与ではない事も承知している。
- * 今月7日に予定されているミニッツは、大蔵省の確認を得たものとして、ミニッツに副署名する。
- * 日本側からの依頼による長期専門家(車両修理と野生生物保護)のA1フォームについては、KWSから申請があれば、大蔵省としては問題は無い。

13. 平成3年10月3日・英国ODAナイロビ事務所

(1) 会談協議出席者 (9時10分～10時10分, ※印は、主な会談者)

ODA : ※ アダム・ウッド 駐在員
調査団 : ※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境所員, メニア女史

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府の要請で、主な国立公園6ヶ所を対象としたインフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪している。
- * 日本国政府は、野生生物保護計画を支援する意思があり、当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので、既にKWSと協議を重ね、主な国立公園の視察調査も行った。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供説明)
- * 野生生物保護計画に関する貴方の見解を承りたい。

② アダム・ウッド駐在員から

- * 以前の野生生物保護管理局をKWSを公社に改組した事は、成功であった。
- * 世銀の野生生物保護計画では、英国の分担額は2200万ドルの内示であったが、そんな額を出せる約束はしていない。実際は400万ドル程度であろう。
- * KWSの管理方式は、もっと改善したい。KWSを商業的な体質にしたい。我々は、財務や総務等の2～3部門に専門家を送り込みたいと思っている。
- * 既に、東ツァボと西ツァボの2公園には、200～300万ドル相当の無線通信機器を供与済みである。
- * 別に、KWSの全国通信網整備として、700～800万ドル程度の機材を供与する計画もある。
また、KWSの管理用やメンテナンス用として、車両機材の供与予定もある。
- * ナイロビの機械修理工場(W/S)の充実は、第1優先順位に考えている。そのため、W/S用の機器具に、日本製と英国製が混じっても良いと思う。
- * 経常コスト(Recurrent Cost)や、運用経費(Running Cost)の不足を補う事も考えている。
- * 世銀のワシントン会議後、ロンドンで11月21日にODAとしての会議があるため、それらの資料を準備中である。そのためにも日本側の拠出額を聞きたい。5年計画のマスタープランによれば、日本には1700万ドルを期待されている。
- * KWS管理部門の強化が必要で、資金が不足する場合には、規模の縮小も考えられる。
- * 日本側の第1段階、第2段階に分ける事には、同意する。また専門家の長期派遣にも賛成する。

14. 平成3年10月3日・米園USAIDナイロビ事務所

(1) 会談協議出席者 (10時30分～11時40分, ※印は、主な会談者)

USAID : ※ ジャムス・F・ダーン・駐在員 (農業開発担当)
調査団 : ※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山
JICA : 境, メニア女史の2所員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * ケニア国政府の要請で、主な国立公園6ヶ所のインフラ整備に関連する機材供与に関して、無償資金協力の可能性を見極めるために来訪している。
- * 日本国政府は、野生生物保護計画を支援する意思があり、当調査団の目的はケニア国側要請の必要性、妥当性、機材の優先順位、仕様等について、その確認を行うもので既にKWSと協議を重ね、主な国立公園の視察調査を行った。
- * 日本の無償資金協力の方式と、これを担当するJICAの業務等は、この資料の通りである。(パンフレットを提供説明)
- * 野生生物保護計画に関する貴方の見解を承りたい。

② ジャムス・F・ダーン駐在員から

- * KWSの車両や機械のメカニックについて、もっと訓練(Training)を行う必要がある。現状では、機械を供与しても有効な稼働状態を保てるかどうかも問題である。従って、専門家派遣なども効果はあるが、車両や機械を納入するメーカー業者の現地代理店から、KWSの運転員やメカニックの実地訓練も必要である。
- * 米国の援助には、小規模プロジェクトとして、機材補修プロジェクト(Equipment Rehabilitation Project) 1.2 Million (120万ドル)がある。これはケニア国内で車両や工具等を購入し、必要なトレーニングを行っており、プロジェクトの終了は1992年6月である。
- * その第2段階(Phase II)としては、KWSと各公園周辺地域住民が相互理解を高めて、双方が良い関係になるように、各現地の進路指導プロジェクト(Field Orientation Project)を予定している。
- * これには、短期専門家を駐在させて、地域社会の共同生活体(Community)調査も行う予定であるが、ケニア側の事情で、プロジェクトの進行が遅れている。
- * USAID側から見た6公園の状況については、東西ツァボ、アンボセリ、及びナイロビが最優先と考えられ、ナクール湖とメルーの優先度(Priority)は低い。
- * 本案件関係では、オランダのプロジェクトは進行している模様だが、他のドナー国関係は余り進展していない様である。
- * USAIDナイロビ事務所としては、ソフト部門に関心があり、今後はザンビア国、南アフリカ国での自然保護関係の調査も行う予定である。

15. 平成3年10月4日・ケニア野生生物公社(KWS)本部事務所

(1) 会談協議出席者 (午前と午後、 ※印は、主な会談者)

KWS本部	※ リーキー総裁,	ムイラリア特別顧問
KWS本部	キフリヤ機械通信課長,	カマウ道路金網課長
KWS本部	スミス営業管理部長,	キヌスア生産開発課長補佐
世界銀行	※ ガジャン・バスマナ・ザン (東アフリカ・ミッション員)	
USAID	※ ジャムス・F・ダーン・駐在員 (農業開発担当)	
オランダ	※ ニコ・ビセール (農務駐在官)	
調査団	※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山	
日本大使館	※ 有安1等書記官	
JICA	境, メニア女史の2所員	岡, 松本, 北村の3隊員

(2) 協議の要点

① リーキー総裁から

- * 本日の議題は、KWSの近況と、日本側からの提案(Proposal)説明、各ドナーの意見交換などを、主なテーマに致したい。
- * KWSの現状については、昨年のKWSに改組以降、関係職員等の減員に関する大統領府令に従って約1600余名を整理してきた。それには、1部を観光野生生物省(MTW)に戻したり、大部を解雇したりしているが、MTW省にはそれら人達に対する給与(Salary)の裏づけが無く、取り敢えずは最低限の給与を得るため、再びKWSに復帰させたりしている者もいる状況である。
- * 対象人数約1600人の内訳は、以前の汚職容疑者は約700人で、KWSでは正邪の決定が行われる迄は妥協しない。今も約100人が取り調べ中で、汚職者には退職金を与えない。残りの900余人については、年齢50歳以上で退職の間近い者約60人の他は、約3ヶ月間の給与を保証して自宅待機させ、他の政府機関等に就職できるよう執り回している処である。
- * そのために必要な資金の一部は、世銀からの拠出を得ており、KWSはこれらの事態を乗り越えようとしているので、理解を願いたい。
なお、有能な人材については、募集(Recruit)も同時に行っている。

② 中村団長から

- * 各公園について現地調査を行った結果、日本としては、協力隊員が常駐しているナイロビ、西ツァボ、東ツァボ、の3公園を対象に致したい。これらの公園には道路補修等の重機械と管理用の自動車類、およびワークショップの中の機器具等も考慮中である。

15. 平成3年10月4日・ケニア野生生物公社(KWS)本部事務所(続き)

③ 列席の各ドナー等との会談

- * [世銀] 日本は、近日中にサザト世銀事務所長が持って帰る最新版のレポートを良く読んで欲しい。そしてマスタープラン等との関連に留意して頂きたい。
- * [日本] 了解。
- * [オランダ] 機材は、全部を対象にするのか、それとも絞ってやるのか。
- * [日本] 対象3公園の機材について、当初の3年分を第1期とし、次の2ケ年を第2期とする。その第2期は、第1期の様子を見てから、対応を検討したい。
- * [KWS] 全体計画には2ケ年を費やしてきた。この全体計画を良く考慮して対処願いたい。3年後の評価(Evaluation)如何んで、プロジェクトが潰れる場合もある。
- * [世銀] マスタープランとの擦り合わせを望む。
- * [KWS] 日本の車両の中には、ケニア国内で、スペアパーツ等が無い車種もあるので、これらに留意して欲しい。
- * [日本] 了解。
- * [オランダ] オランダとしては、ナイバシャの訓練(Training)、森林(Forest)、湿地帯(Wet Land)に興味を持っている。また、施策の創造(Policy Making)、タナ河デルタ地域等を含む海岸地帯の対応(Marine Management)にも関心がある。
まだ、細かい内容等はずめていないが、3~4年間で、5.5 Million程度。これには、専門家の派遣も考えている。
- * [日本] 我々も、長期的な見地から、国立公園センター(National Park Center)や、野生生物保護(Wildlife Conservation)等にも、関心を持っている事をお知らせする。
- * [オランダ] 生物学(Biological)的な面と、多様性(Diversification)や周囲の環境(Environment)にも、十分な配慮が望ましい。
- * [日本] 道路の新設改良等には、事前の影響評価(Assessment)等も必要だと思う。
- * [米国] KWSは、人員整理を速やかに促進して、早くプロジェクトの進行を容易にして欲しい。
- * [KWS] 了解、今後も各ドナーと話し合いを続けたい。途上国は、どうしても近視眼的になるので、各ドナーの長期的な視野から有益な助言を希望する。

16. 平成3年10月7日・JICAケニア事務所

(1) 会談協議出席者 (14時00分～15時00分, ※印は、主な会談者)

JICA : ※ 森本所長,
JICA : 高畑次長, 境, 内野の2所員, 岡・松本・北村の3隊員
調査団 : ※ 中村団長, 新井, 西川, 小林, 西山

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * 本日の午前中に、KWS本部でリーキー総裁と覚書(Minutes)を署名し、交換したことを報告する。-----〔後掲添付のミニッツ写×1部を提出〕
- * 本要請案件は、日本として最初の野生生物保護案件である事から、各国立公園の現地調査、および各ドナー等の動向をも調べた結果、日本の協力隊員が常駐している3公園を対象とし、その第1期(1～3年)分の機材に絞ったが、この点について、署名前にリーキー総裁に当方の意向として、第一段階(1st Step)が成功したら、次回検討の可能性も大きいと話した処、総裁は了解した。
- * 本調査団の今後の予定は、継続して調査を行う団員(小林、西山)によって、KWSに依頼中の質問表の入手とチェック、3公園の第1期分機材リストと、その用途聴取や仕様の調査を行い、帰国後、なるべく早いうちに日本側としての概算数量等を固める。

② 双方の意見交換要旨

- * 〔事務所〕 機械修理工場(Workshop: W/S)について、調査団の見解は。
- * 〔調査団〕 機械修理工場(W/S)の建物は対象外とし、工場(W/S)内部に最低必要な機器具類の供与についてのみ考えたい。現地視察の結果、東西ツァボ両公園には既存の建物があり、これは今後も充分活用できる構造の建物施設である。但しナイロビ公園は建物が古く狭いので、KWSは、中央工場として新設する予定であり、その拡張場所と新規建物のレイアウト図面をキフリア課長から見せられた。
- * 〔調査団〕 修理用の機器具類は、日本側供与予定の車両機械を点検整備し、補修するものに限定し、旧来からの現有車両等を修理する機器具は対象外と致したい。3ヶ所の各公園にW/Sが、それぞれ必要か否か。故障機械等をW/Sへ搬入には、30屯積低床式トレーラも必要になるが、1公園当りの車両機械台数は比較的少ないので、修理工作自動車(Mobil Workshop)で公園内を巡回修理の方が妥当である。従って、修理工場用機器具と修理工作自動車との実用性や経済性等を比較検討し、適切なものを選定するようにしたい。
- * 〔事務所〕 新規の機材要請について、仕様や数量を査定する場合、その理由や根拠を明確にして、次回に来る簡易B/D調査には、機材説明のできる人物を東京から送って欲しい。

17. 平成3年10月7日・在ケニア日本大使館

(1) 会談協議出席者 (16時00分～16時30分、※印は、主な会談者)

日本大使館 : ※ 有安1等書記官
調査団 : ※ 中村団長、新井、西川、小林、西山
JICA : 境・所員

(2) 会談協議の要点

① 中村団長から

- * 本日の午前中に、KWS本部でリーキー総裁と覚書 (Minutes) を署名し、交換したことを報告する。…………… [ミニッツの写×1部を提出]
- * 本要請案件は、日本として最初の野生生物保護案件である事から、各国立公園の現地調査、および各ドナー等の動向をも調べた結果、日本の協力隊員が常駐している東西ツァボとナイロビの3公園を対象とし、その第1期 (1～3年) 分の機材に絞ったが、この点について、署名前にリーキー総裁に当方の意向として第一段階 (1st Step) が成功したら、次につながると話した処、総裁は了解した。
- * 本調査団の今後の予定は、継続して調査を行う団員 (小林、西山) によって、KWSに依頼中の質問表の入手とチェック、3公園の第1期分機材リストと、その用途聴取や仕様の調査を行い、帰国後、なるべく早いうちに日本側としての概算数量等を固める。
- * この事前調査報告書の完成後、東京より、簡易B/D調査か、本格B/D調査、の何れかを再び送り込みたい。
そして、このKWS案件は、1992年度の閣議にかける予定である。
- * なお、来年 (1992年) の2～3月頃、KWSリーキー総裁が来日する予定である。

② 新井団員から

- * 国立公園センター計画 (National Park Center Programme) について、ナイロビまたはナイロビ以外の処でも検討したい。
- * 本案件の全体的な動きは、最後まで仲々掌握できなかったが、世銀や米国の動向および非政府援助機関 (NGO) の様子等についても、注目を続けたい。
- * プロ技協の可能性についても今後考えて見たい。

③ 西川団員から

- * 日本の援助額が、或る程度に想定されるので、ハード面とソフト面の割り振りが難しい。ソフト面に力を入れるか否かは、環境庁のお考えにもよるが、国立公園センター等との絡みで、今後ハード面のみが大きくなるのは好ましくないと思う。

④ 小林団員から

- * 事前調査報告書は、各団員と調整しながら、帰国後4週間ほどで完結させたい。

18. 平成3年10月8日～9日・メルー国立公園事務所

(1) 会談協議出席者

国立公園 : ジャコブ・イクニユア公園長 (Senior Warden, Mr. Jacob Ikunya)
KWS本部 : キフリヤ機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 小林, 西山
JICA : 境・所員, 岡, 北村, の2隊員

(2) 会談協議の要点

① 小林団員から

- * ケニア国政府側の要請で、国立公園の中の6ヶ所を対象に、インフラ整備関連の機材供与に関する無償資金協力の可能性を見極めるために来訪した。
- * 既に、東ツァボ、西ツァボ、アンボセリ、ナクール湖、ナイロビ、の5公園は視察済みである。今般、メルー国立公園の現状を視察させいいただきたい。

② ジャコブ・イクニユア公園長から

- * 当公園は、1966年12月に開設し、面積は870平方kmである。地勢的には、海拔800mから300mの東傾平原丘陵で、公園の北部地域は草原が多く、中部以南には灌木林が次第に多く群生している。野生動物の種類と数は豊富で、河川や湧き水もあり。大自然状態に恵まれている。
- * 首都ナイロビからは陸路260kmで、公園近くの道路状態が悪いため、来訪客は比較的少なく、年間1万人を超える程度である。公園内には飛行場が7ヶ所あり、小型飛行機ならば1時間ほどで来られる。
- * 公園の周囲は、東側にビサナディ国立保護区(606平方km)、南東側には境界タナ河を挟んで北キツイ国立保護区(745平方km)とコーラ国立公園(178.7平方km)等があり、動物は自由に移動している。
- * 公園内の道路は、砂利道路80km、土道路1108km、計1188kmであるが、来訪客の多い北部地域内の観察道路(Game Viewing Road)に限って最近グレーダを賃借して補修した。その他の道路はグレーダが故障したままであるから、10年程は無補修状態であり、密猟防止のために何んとかグレーダを導入して、道路補修をしたい。
- * 公園の北部境界は、周辺住民の居住地があるため、主ゲートのマレラゲートを中心に、左右合計25kmを電線柵(Electric Fence)から自在電線柵(Flexible Wire Fence)に改めた。

(3) ジャコブ公園長の案内で、メルー国立公園の各施設を視察調査
(現地の巡回視察は、8日と9日、合計14時間)

- ① メルー国立公園事務所の機械修理工場(部品倉庫と廃棄機材置場等を含む)
- ② 同公園内の北部地域のゲート、道路、脱境防止電線柵、潜水橋、暗渠施設等
- ③ 同公園内の各飛行場、付属建物、公園事務所施設と構内の職員宿舍施設等
- ④ 同公園内のKWS経営の来訪客宿泊・食事用の施設(Meru Mulica Loge)

(4) 当公園へは、ナイロビからKWSの双発飛行機で往復した。

19. 平成3年10月18日・ケニア野生生物公社(KWS)本部事務所

(1) 会談協議出席者 (11時00分～14時40分)

KWS本部 : キフリア機械通信課長, カマウ道路金網課長
調査団 : 小林, 西山

(2) 協議の要点

① キフリア課長から

- * 昨日まで、機材の用途および仕様等を個別に審査した『改定・機材リスト』が完成したので、リーキー総裁に代わり、中村調査団長宛の10月17日付書面を添えて、提出するので宜しくお願いする。

発信日付・文書番号 : 1991年10月17日, KWS/RES/12/8/Vol. I
文書件名 : PRELIMINARY STUDY OF THE KENYA WILDLIFE
CONSERVATION PROJECT.
発信者 : KWS総裁に代わってキフリア(機械通信課長)
宛先 : 事前調査団 中村三樹男 団長(写・JICA総裁)
添付機材リスト : KWS・改定要請機材リスト(3公園と6公園の2種)

② 小林団員から

- * この一件資料は、中村団長とリーキー総裁の覚書に付属するものとして確かに受領し、日本に帰国後、中村団長にお渡しする。……………〔後掲添付・参照〕
但し、機材リストの内容等については、覚書に記載されているとおり、日本における今後の解析・検討等で、変更の可能性もあり得る。

20. 平成3年10月18日・JICAケニア事務所

(1) 会談協議出席者 (15時00分～15時40分)

JICA : 森本所長, 高加次長, 境 所員
調査団 : 小林, 西山

(2) 協議の要点

① 小林団員から

- * KWS本部と内容を聴取検討してきた改定機材リスト等を、本日入手したので、報告する。……………〔文書の写×1部提出〕

② JICA側から

- * 帰国後、作成する調査報告書(写)をJICAケニア事務所にも送付されたい。

21. 平成3年10月18日・在ケニア日本大使館

(1) 会談協議出席者 (15時50分～16時20分)

日本大使館 : 有安1等書記官
調査団 : 小林, 西山

(2) 会談協議の要点

① 小林団員から

- * KWS本部と内容を聴取検討してきた改定機材リスト等を、本日入手したので、報告する。……………〔文書の写×1部を提出〕

② 有安1等書記官から

- * 帰国後、作成される調査報告書には、関心がある。

E. ミニッツと改定・要請機材リスト

(1) ミニッツ(52頁～54頁参照)

英文題名 : Minutes of Discussions the Preliminary Study of the
Project for Wildlife Conservation Republic of Kenya
同上(和訳) : ケニア共和国における野生生物保護計画に関する事前調査
署名年月日 : 1991年10月7日・ナイロビに於て
署名者 : 中村三樹男 (JICA事前調査団長)
: R.E.リーキー (ケニア野生生物公社総裁)
: チャールズ.S.ムビンディオ(ケニア大蔵省事務次官)
ミニッツ構成 : ミニッツ(Minutes)、添付書(Attachment)、付属書(Annex)

(2) 改定・要請機材リスト(55頁～63頁参照)

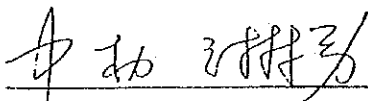
英文題名 : Preliminary Study of the Kenya
Wildlife Conservation Project
同上(和訳) : ケニア野生生物保護計画の事前調査に関する件
発信年月日 : 1991年10月17日(文書番号 : KWS/RES/12/8/Vol.1)
発信者名 : KWS総裁に代わって、L.N.KIHURIA
文書宛先 : 国際協力事業団・調査団長 中村三樹男 殿
文書の構成 : 文書、3国立公園の機材リスト、6国立公園の機材リスト

MINUTES OF DISCUSSIONS
THE PRELIMINARY STUDY OF THE PROJECT FOR
WILDLIFE CONSERVATION
REPUBLIC OF KENYA

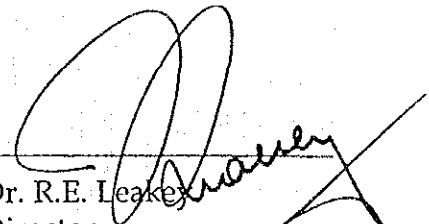
In response to the request from the Government of Kenya, the Government of ~~the~~ Japan decided to conduct a Preliminary Study of the Project for Wildlife Conservation (thereinafter referred to as 'the Project') and entrusted the study to the Japan International Cooperation Agency (JICA). JICA sent to Kenya a study team, headed by Mr. Mikio Nakamura, Assistant for Grant Aid, Grant Aid Division, Economic Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs, which is scheduled to stay in the country from September 26th to October 21st, 1991. The team held a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Kenya and conducted field surveys in the proposed sites.

As a result of the discussions and field surveys, both parties confirmed the main items described on the attached sheets.

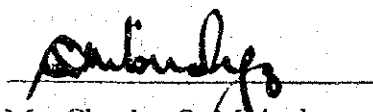
Nairobi, 7th October, 1991



Mr. Mikio Nakamura
leader
Preliminary Study Team
JICA



Dr. R.E. Leakey
Director
Kenya Wildlife Service
Government of the Republic of
Kenya



Mr. Charles S. Mwindyo
Permanent Secretary
Office of the Vice President and
Ministry of Finance
The Government of the Republic of Kenya

ATTACHMENT

1. Objective

The objective of the Project is to conserve Kenya's Wildlife by providing necessary equipment for National parks in Kenya.

2. Project Sites

The sites of the Project are Three National Parks as follows; Nairobi National Park, Tsavo East National Park and Tsavo West National Park.

3. Executive Agency

Kenya Wildlife Service is responsible for the administration and the execution of the Project.

4. Necessary items for the realization of the Project requested by the Government of Kenya.

After the discussions with the Preliminary Study Team, the following items were identified for the realization of the Project:

- (1) Procurement of heavy machineries, equipment and vehicles for rehabilitation and maintenance of roads and the associated infrastructure in Project Sites;
- (2) Procurement of vehicles for wildlife conservation and management in the Project areas; and
- (3) Procurement of equipments and tools for the workshops.

The final components of the Project depends on further studies in Japan.

5. Grant Aid Program extended by Japan

- (1) The Government of Kenya has understood the system of Japan Grant Aid explained by the Team.
- (2) The Government of Kenya will take the necessary measures, described in Annex, for smooth implementation of the Project on condition that the Grant Aid assistance by the Government of Japan is extended to the Project.

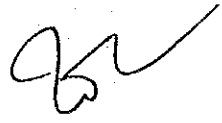
Lo

CB

ANNEX

Undertakings by the Government of the Republic of Kenya.

1. To provide data and information necessary for the Project
2. To provide the land for temporary site office, warehouse and stock yard during the implementation period.
3. To ensure speedy unloading, tax exemption, custom clearance at the port of disembarkation and prompt inland transportation of products purchased for the project.
4. To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with supply of products and services under the verified contracts, such facilities as may be necessary for their entry into Kenya and stay therein for the performance of their work.
5. To exempt Japanese nationals involved in the Project from customs duties, internal taxes and other fiscal levies which may be imposed in Kenya with respect to the supply of equipment/machines and services under the verified contracts.
6. To bear commissions to the Japanese foreign exchange bank of the banking services based upon the Banking Arrangement.
7. To bear all expenses, other than those to be borne by the Grant Aid necessary for the execution of the Project.
8. To assign exclusive counterpart engineers/technicians for the Project.
9. To maintain and use properly and effectively the facilities constructed and equipment purchased under the Grant.





HEADQUARTERS PO Box 40241, Nairobi, Kenya Telephone: 501081-7 Fax: 505866, 505752

KWS/RES/12/8/Vol.I

17th October, 1991

Mr. M. Nakamura
Team Leader
Japan International Cooperation Agency

Dear Sir,

PRELIMINARY STUDY OF THE KENYA

WILDLIFE CONSERVATION PROJECT

I write to thank you very much for the contribution of your team subsequent to our application of Grant Aid Assistance to the Japanese Government.

Your evaluation of the data we submitted to you under cover of our letter KWS/RES/12/8/Vol.I/(111) of 26th September, 1991 is highly appreciated.

Following the conclusion of the deliberations we are herewith enclosing revised schedules of the required and additional equipment by the six and three National Parks.

The six Parks complement include data pertain to Nairobi, Tsavo West, Tsavo East, Lake Nakuru, Meru and Amboseli National Parks, while the three Parks package comprise data for Nairobi, Tsavo West and Tsavo East National Parks requirements.

It is to be noted that, the revised schedules reflect minor changes in quantities of some equipment, deletion of some categories of machinery and adjustment of some specifications.

The adjustments were made in due cognizance of the following:-

1. Affirming of the work programme during the PAWS Project implementation, between the KWS headquarters management and the Park Wardens. (in cognizance of the new KWS organisation mode as opposed to the WCMD management perspectives). The meeting that conducted the above deliberations was scheduled to be held (and was held) on 3rd October, 1991.

Some of the issues deliberated upon were:-

- Tourist Circuits development and maintenance programme.
- Distribution of Aircraft to Parks

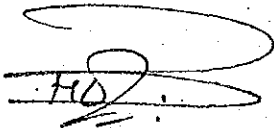
2. The adjustment of specifications and deletion of some models was carried out so as to standardize the models in the fleet, as much possible and to accommodate suitable equipment which is available from Japanese manufacturers.

The advantages of deminished fleet proliferation are:-

- Reduction of spare parts variety
- Specialization of maintenance personnel and equipment
- Selection of the most suitable model for general application

We hope that these proposals meet with your approval and look forward to the pleasure of further cooperation.

Yours faithfully,



L.N. KIHURIA
for: DIRECTOR

c.c. Mr. M. Morimoto
Resident Representative
Jica, Kenya Office.

(付表一七)

PARKS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION.	NAIROBI		TSAVO WE		TSAVO EAST		FLEET		PROGRESSIVE FLEET GROW				
		TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	1	2	3	4	5		
1	BICYCLE	5	5	2	2	12	12	19	19	19				
2	MOTOR CYCLE	3	3	2	2	6	6	11	11	11				
3	4x2 CAR SALOON	6	5	1	1	1	1	8	7	7				
4	4x4 LIGHT UTILITY	3	3	3	3	3	3	9	9	9				
5	4x2 PICK - UP							0	0					
6	4x4 H.D. PICK - UP	2	2	4	4	4	4	10	10	6				
7	4x4 H.O. DOUBLE CAB													
8	4x4 HEAVY D. PICK-UP	4	4	12	12	15	15	31	31	24		7		
9	4x4 H.D. DOUBLE CAB	1	1	2	2	2	2	5	5	5				
10	4x4 HARD TOP							0	0					
11	4x4 H.D.S/WAGON	7	7	2	2	2	2	11	11	6		5		
12	6x6 PICK-UP													
13	4x2 MICRO-BUS (SMALL BUS)	2	2	1	1	4	4	7	7	7				
14	4x2 TOURIST BUS (MEDIUM BUS)	4	4	2	2	1	1	7	7	4		3		
15	4x2 LARGE BUS	2	2	2	2	3	3	7	7	4		3		
16	4x2 4T TRUCK	3	3	4	4	2	2	9	9	6		3		
17	4x2 8T TRUCK	4	4	4	4	9	9	17	17	9		8		
18	4x4 4T TRUCK	1	1	4	4	6	6	11	11	6		5		
19	4x2 8T TIPPER TRUCK	4	4	8	8	8	8	20	20	20				
20	4x2 8T WATER TANKER	2	2	2	2	2	2	6	6	6				
21	4x4 4T WATER TANKER			2	2	3	3	5	5	5				
22	4x2 8T PUBL TANKER			4	4	4	4	8	8	4		4		

PARKS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION	TOTAL ADD				PROGRESSIVE FLEET GROW						
		NAIROBI	TSAVO WE	TSAVO EAST	FLEET	1	2	3	4	5		
23	4x2 4T EXHAUSTER	1	1		1	1	2	2	2			
24	4x4 14T RECOVERY VEHICLE	1	1		1	1	2	2	1		1	
25	WATER DRILLING RIG.	1	1				1	1	1			
26	RIG TENDER	1	1				1	1	1			
27	PRIME MOVER & LOWBED.	1	1	1	1	1	3	3	2		1	
28	LOW BED GRADER TOWED (HEAVY DUTY TRAILER WITH WITH TOWING BAR)	1		3	2	3	2	7	4	1		1
29	4x2 WHEEL TRACTOR	2	3	4	4	7	5	13	12	3		
30	4x4 WHEEL TRACTOR	1	1	4	4	4	4	9	9	6		3
31	125-155 HP MOTOR GRADER	2	1	8	8	8	8	18	17	9		8
32	10T VIBRO ROLLER	1	1	4	4	4	4	9	9	6		3
33	1.8 M CU DOZER SHAVEL WITH RIPPER	1	1	4	4	4	4	9	9	5		4
34	1.7 M CU WHEEL LOADER					1	1	1	1	1		
35	195-215 BULL DOZER WITH RIPPER					1	1	1	1	1		
36	1 TON TOWED W/SHOP	1	1	1	1	1	3	3	3			
37	3 M CU NON TIPPING TRAILER	1	1				1	1	1			
38	5T TIPPING TRAILER						6	0				
39	1000LT FUEL TRAILER	1	1	2	2		3	3	3			
40	1000LT WATER TRAILER	2	2	4	4	4	10	10	10			
41	1 TON PED. VIBRO ROLLER.	1	1	4	4	4	9	9	6			3
42	175 LT CONCRETE MIXER	1	1	4	4	4	9	9	6			3

PARKS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION.	NAIROBI		TSavo WE		TSavo EAST		FLEET		PROGRESSIVE FLEET GROW				
		TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	1	2	3	4	5
43	LAWN MOWER	2	2	2	2	3	3	7	7	7				
44	GRASS CUTTER	3	3	4	4	4	4	11	11	6		5		
45	POWER SAW	1	1	1	1	2	2	4	4	4				
46	CONCRETE VIBRATOR (VIBRATING POKER)	1	1	4	4	4	4	9	9	6		3		
47	BITUMEN SPRAYER	1	1	1	1	1	1	3	3	3				
48	WATER PUMP	2	2	9	2	5	5	16	9	6		3		
49	GENERATOR SET	3	3	6	5	5	5	14	13	9		4		
50	STATIC ENGINE							0	0					
51	AUGER BIT- TRACTOR TRACTOR ATTACHMENT (EARTH AUGER)	1	1			1	1	2	2	2				
52	TELECOM. EQUIPMENT	SET		SET	SET	SET	SET							
53	OFFICE EQUIPMENT	SET		SET	SET	SET	SET							
54	AIRCRAFT								0					
A	2 SEATER	1	1	1	1	1	1	3	3	3				
B	4 SEATER			1	1	1	1	2	2	2				
C	6 SEATER							0	0					
D	HELICOPTER	1	1					1	1	1				
E	16-18 SEATER							0	0					
55	BOAT							0	0					
A	POWER PATROL (HIGH SEA) AND TRAILER							0	0					
B	ORDINARY AND TRAILER			2	2	1	1	3	3	3				
	BOAT ENGINE			3	3	1	1	3	4					

PARKS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM		NAIROBI		TSAVO WEST		TSAVO EAST		LAKE NAKURU		NERU		AMBOSLI		YEAR 1
No.	DESCRIPTION.	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	FLEET
1	BICYCLE	5	5	2	2	12	12	15	15	10	10	1	1	45
2	MOTOR CYCLE	3	3	2	2	6	6	4	4	2	2	1	1	8
3	4x2 CAR (SALOON)	6	5	1	1	1	1	1	1	1	1			9
4	4x4 LIGHT UTILITY	3	3	3	3	3	3	4	4	1	1	6	6	12
5	4x2 PICK UP													
6	4x4 M.D. PICK - UP	2	2	4	4	4	4	14	14	4	4	7	6	23
7	4x4 M.D. DOUBLE CAB													
8	4x4 HEAVY D. PICK-UP	4	4	12	12	15	15	14	14	17	17			30
9	4x4 H.O. DOUBLE CAB	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	12
10	4x4 HARD TOP													
11	4x4 H.D.S/WAGON	7	7	2	2	2	2	4	4	4	4	4	3	15
12	6x6 PICK-UP													
13	4x2 MICRO-BUS (SMALL BUS)	2	2	1	1	4	4	3	3	2	2			8
14	4x2 TOURIST BUS (MEDIUM BUS)	4	4	2	2	1	1	3	3	1	1	2	2	8
15	4x2 LARGE BUS	2	2	2	2	3	3	3	3	1	1			6
16	4x2 4T TRUCK	3	3	4	4	2	2	2	2	5	5	1	1	12
17	4x2 8T TRUCK	4	4	4	4	9	9	5	5	10	10	2	2	26
18	4x4 4T TRUCK	1	1	4	4	6	6	3	3	6	6			12
19	4x2 8T TIPPER TRUCK	4	4	8	8	8	8	5	5	12	12	4	4	41
20	4x2 8T WATER TANKER	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	11
21	4x4 4T WATER TANKER			2	2	3	3	1	1	1	1			7
22	4x2 8T FUEL TANKER			4	4	4	4			2	2	1	1	6
23	4x2 4T EXHAUSTER	1	1			1	1			1	1			2

PARAS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION.	NAIROBI		TSAVO WEST		TSAVO EAST		LAKE HAKURU		MERU		AMBOSLI		YEAR 1 FLEET
		TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	
24	4x4 14T RECOVERY VEHICLE	1	1			1	1							1
25	WATER DRILLING RIG.	1	1											1
26	RIG TENDER	1	1											1
27	PRIME MOVER & LOWBED.	1	1	1	1	1	1							2
28	LOW BED GRADER TOWED (HEAVY DUTY TRAILER WITH TOWING BAR)	1		3	2	3	2	1	1			1	1	3
29	4x2 WHEEL TRACTOR	2	3	4	4	7	5	6	6	3	3	2	2	12
30	4x4 WHEEL TRACTOR													
31	125-155 HP MOTOR GRADER	2	1	8	8	8	8	3	2	3	3	2	2	12
32	10T VIBRO ROLLER	1	1	4	4	4	4	1	1	1	1	1		6
33	1.8 M CU DOZER SHAVEL WITH RIPPER	1	1	4	4	4	4	1	1	2	2	1	1	7
34	1.7 M CU WHEEL LOADER					1	1							1
35	195-215 BULL DOZER WITH RIPPER					1	1							1
36	1 TON TOWED W/SHOP	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	7
37	3 M CU HOR TIPPING TRAILER	1	1					3	3	1	1	1	1	3
38	5T TIPPING TRAILER													
39	1000LT FUEL TRAILER	1	1	2	2							1	1	4
40	1000LT WATER TRAILER	2	2	4	4	4	4	3	3	3	3	2	2	12
41	1 TON PED.VIBRO ROLLER.	1	1	4	4	4	4	1	1	4	4	1	1	12
42	175 LT CONCRETE MIXER	1	1	4	4	4	4	2	2	4	4	1	1	6
43	LAWN MOVER	2	2	2	2	3	3	4	4	3	3	1		12
44	GRASS CUTTER	3	3	4	4	4	4	3	3	2	2			12
45	POWER SAW	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2			6

PARAS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION.	NAIROBI		TSAVO WEST		TSAVO EAST		LAKE NAKURU		MERU		ANBOSELI		YEAR 1 FLEET
		TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	TOTAL	ADD	
46	CONCRETE VIBRATOR (VIBRATING POKER)	1	1	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	12
47	BITUMEN SPRAYER	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	7
48	WATER PUMP	2	2	9	2	5	5	1	2	5	3	1	2	12
49	GENERATOR SET	3	3	6	5	5	5		2	1	3			12
50	STATIC ENGINE													
51	AUGER BIT - TRACTOR ATTACHMENT (EARTH AUGER)	1	1			1	1			1	1			3
52	TELECOM. EQUIPMENT	SET		SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	
53	OFFICE EQUIPMENT	SET		SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	
54	AIRCRAFT													
A	2 SEATER	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
B	4 SEATER			1	1	1	1		1	1				0
C	6 SEATER													
D	HELICOPTER	1	1											1
E	16-18 SEATER													
55	BOAT													
A	POWER PATROL (HIGH SEA) AND TRAILER													
B	ORDINARY AND TRAILER			2	2	1	1			1	1			1
C	DINGY AND TRAILER			1	1	1	1	1	1	1	1			1
56	WORKSHOP EQUIPMENT	SET		SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET			
57	REPAIRING MATERIAL	SET		SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET	SET			

PARKS EQUIPMENT INVENTORY

REQUIRED AND ADDITIONAL EQUIPMENT BY 6 NATIONAL PARK UNIT AND COST

ITEM No.	DESCRIPTION.	HAIROBI				TSAYO WE				TSAYO EAST				PROGRESSIVE FLEET GROW					UNIT COST KSHS '000'
		TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	TOTALADD	1	2	3	4	5					
C	DINGY AND TRAILER		1	1	1	1			2	2							160		
	BOAT ENGINE																		
56	WORKSHOP EQUIPMENT	SET	SET	SET	SET	SET													
57	FENCING MATERIAL	SET	SET	SET	SET	SET													
									392										